

## 続・詩的生活の方法



kiramekikids



続・詩的生活の方法

## 仮死状態

---

心を磨くために

何をしたらよいのか

どうしたら

心を高められるのか

心を鍛えていけるのか

しかし

心を見つめれば見つめるほど

どこにあるのか

どういうふうになっているのかと

迷いのなかに

閉じ込められそうになってしまい

さてと考えているうちに

面倒くさくなってしまい

考えていたことを

やめてしまう

ひとときの青春だったと

自分の中の感情を押し殺して

だましだまし

生きていってしまう

しかし

その部分は

自分の手で

封印はしているけれど

決して死んではいない

仮死状態のその部分は、

あるきっかけで

目覚めることもある

それを助けるのが

芸術の役割であり

詩も

その一躍を

担うものでもある

あなたの心は

あなたの青春は

あなたが眠らせている・・・。

## 君の向かう方向

---

君は選択している

幸福と不幸を

当然、

みんな幸福を取ろうと

頑張っているように

思えるけれど

実は違う

無意識に不幸を

選択しているにも

かかわらず、

それに気付かずにいる

なぜ、無意識に

不幸を選択しているかといえば

不幸は同情を

かうことができるから

関心を自分に

向けることができるから

子供は

親の関心をかいたくて

熱を出したり、おなかが痛くなったりして

愛情を引き出そうと必死になる

もし君が

無意識に不幸を

選択しているのであれば

君を救うことは誰にもできない

なぜなら

君は、君自身が望む方向に

向かっているのだから・・・

愛されるのが望みなら

それで、叶ってしまうから・・・

## 離れてしまった心

---

人は

生きる気力を

失いかけている

溢れる情報や知識の中

溺れかけ

呼吸ができなくなっている

そんなとき、

過去を振り返るように

自分を振り返るように、

芸術に触れて

体の中の空気を

入れ換えてみる

心を覆っていた

塵や埃が

剥がれ落ち

人間本来の心が



生まれたての時のように

新鮮に甦る

芸術家たちの

悲哀の涙が

あなたの心の湯いた部分を

潤すと共に

本来の仏神との距離を

思い出させてくれるはず・・・

離れてしまったのは

仏神ではなく

私たちの心

なのだから・・・

詩人の自己確立期における

最大の克服課題は

どんな環境でも

詩を創作し続けられるかに

かかっている

長く活動することは難しい

しかし

その不本意な環境は

あきらかに詩人の意志を試す

激流、豪雨、その暴風雨のなか

魂の火を消すことなく

創作し続ける意志を

持ちうるかが

試されている

その実践の中

磨かれる芸術は

やがて人類の至宝となる

## 詩的生活の方法について

---

経済的なことに

自分の芸術を

詩的生活を

振り回されないように

人生の早いうちに

そのことを念頭に置いて

始めていくのが

よいと思われま

この世は、

経済原理の中に

あるという意識を

しっかり持って

決して行き当たりばったりで

行かないように気をつけないと

その経済原理によって

芸術活動、詩的活動を

断念しなくては、ならなくなります

これは、ひとつの技術です

お金が入ったからといって

皆に奢ってしまったりしても

消えてしまうだけですよ

他人に何と言われようとも

詩的生活を守るということを

強い意志として持たないと

流されて

消えてしまうかもしれませんよ

自分の詩的生活は

誰も助けてくれたりはしないと

それぐらいの気持ちで

自分を律していくことが

詩的生活を守ることになると

私は、考えます

自分は知っている

---

何を信じるかは

その人の自由です。

でも本当は、心の中では

知っているのかもしれませんが。

自分は正直です。

自分の心は

自分には嘘をつけません。

本当の幸福は、

あなたがいちばんわかっている。

相対的なものごとの評価なんて

相対的故に移ろうのです。

移ろうもののなかに

幸福があろうはずがありません。

時間をかけてみれば

それは、ひとときの幻にしか

ならないからです。

真実、あなたの価値を

計るものは、

あなた自身の胸の温かさ

だからです。

それを信じて下さい。

そして

自分を信じて下さい。

他人の言葉よりも

自分の心の声に

耳を傾けて下さい。

自分は、知っているから。

すべてを知っているから。

## ひとつの悟り

---

現実をしっかり

見つめて生きていく

目をしっかり開けて

自分のことも

しっかり分析していかないと

その現実、つまづくことになります

今すぐに結果はでません

だからこそ

永遠の努力の覚悟が試されている

自分の決心が強められる

修行・・・

魂の修行

そう考えた時に

ひとすじの光りが見えてくる

やがて終わる生に

それほど振り回されない



がしかし

軽く扱ってもいけない

この壮大な修行場を

提供して下さっている

主に感謝を込めて

大いに魂を鍛えて

ゆくことに前向きになれたなら

あなたは

ひとつの悟りを

手に入れる

## 地味な毎日

---

地味な毎日を

恐れては、いけない

平凡な日々を

恐れてはいけない

孤独な、日々を

恐れてはいけない

地球は、

46億年も

自転と公転を繰り返して

私たちを育てている

太陽は

100億年も燃えている

毎日、同じ、繰り返し

地味な繰り返し

いや、

平凡でも

地味でも

ない・・・

奇跡だと

私は、思います。

## 孤独の意味

---

人間は、なぜ

孤独に陥るのか

どんな人にも

例外なく、孤独感

自分は、独りだと

感じる時がある・・・

私は、その時にこそ

愛について、

考えて見る時だと

思います

何かと離れているから

寂しい・・・

一体だったものと

別々になってしまったから

その気持ちが襲ってくる・・・

それを考えてみる内省的な

回帰・・・独りだからこそ。



## 選ばれた人

---

もし、あなたが

子供時代に、

愛された経験を

感じていないのであれば

今でも、どこかで、

愛をもらおうと

もがいているかもしれません

しかし

それは、必ず、

徒労に終わるはずですよ

なぜなら、あなたは、愛されるために、

ここに来たのではありません

人を愛しに

ここに来たのです

主の代わりに

主の手足となって

主の愛を

あなたが人に

与えるのですから

その役目は

おもいと

思われるかもしれませんが

あなたが選ばれたのです

あなたは

愛がないと

苦しいと思う

あなた以外も

そう思っている

そして、あなたは、

そのことに気がついた

だからこそ

あなたが与えるのです

そして与え続けるのです

あなたが選ばれたのだから

決して、見返りを求めずに・・・



## 招いたもの

---

言葉の乱れは

心の乱れ

心の乱れは

信仰の乱れ

戦後

失われた

心と柱

指針なき発展は

欲望のみを

肯定し、

それを飲み食らうことを

糧として、ここまで来た

戦後民主主義を

浴びた亡霊たちよ

いち早く退席して下さい

あなたが作った社会は

怪物となりつつあります

あなた達は

今の若者たちを

見て嘆きますが

目を背けてはいけません

あなた達は

いちばん人間として

大切なものを

無視し教育の場、公的な場から

排除してしまいましたね

一番大切なものを

その心から

切り取ってしまったのだから

その子供達が、どう育つかは

分かるはずです

目を逸らしては

いけません

自分たちの招いたものを

直視して下さい

あなた達が

社会にしがみついているから

子供達がすねて

引きこもっていますね

あっ

違いました

仕事を放さないから

奪っているから

親子で、仕事を取り合うなんて

なんて、呪われているのでしょうか・・・

## 老婆心

---

老婆心ですが

これから、詩的生活を

送られる方へアドバイスとして・・・

もし、あなたが

何かを書こうとして

書けずにいるのなら

少し手を休めて

私の話を聞いて下さい

あなたは、書きたい

でも書けない

どうしてでしょう？

それは、こういう例えで

理解して戴けると思います

お腹が空いた

料理を作りたい

でも・・・材料がない

そうです

何かを書こうと思うのなら

材料を冷蔵庫に入れておかなければ

なりません

それが、蔵書です

それも良質で、熟成された、品質の高いもの

最低千冊は、必要だと思われます

一年で、百冊、十年で千二百冊

そしたら

その時、無尽に湧いてくる

創造の泉を掘り当てるでしょう

また、読み続けなければ

その泉は、やがて

涸れてしまいます・・・

例外なく・・・ですよ



## 勝ちの原因と負けの原因

---

本を数千冊読み

ある程度、自分の考えが

固まってきたと思われたら

違う分野の本を

読むのも手ですよ

新しい角度から

違った景色が

見えてくるかもです

ある一定の方向ばかり

見ていると

真実が見えなくなってしまう時も

ありますよね

やはり

立体的に

眺めてみると

いち早く

自分の考えの

間違っているところが

修正できますよね

自分で、自分を修正できたら

それに、こしたことは

ありませんよね

常に、フレキシブルに

勝ちの原因が

いつの間にか

負けの原因に

なっているのを

防ぐことができる

唯一の手段かもしれませんよね・・・



許し

---

あなたは

あなたの罪悪感で

あなた自身を罰してきました

あなたは

あなたの罪悪感で

あなた自身が不幸を

選択してきてしまった

あなたの罪悪感で

幸福になることを

恐れている

主に祈りましょう

主があなたを

愛して下さるが如く

あなたも他人を愛しましょう

主があなたを

生かして下さいが如く

あなたも他人を生かしましょう

主があなたを

許して下さいが如く

あなたも他の人を

許しましょう

主があなたの発展を

祝福して下さいが如く

あなたも他の人の発展を

祝福致しましょう

もういいんです

苦しまなくても・・・

主は、必ずあなたを

許して下さいます・・・

かえってきたこと

---

雨は上がり

日の光が和らぐ

風はそよぎ

清らかなる

すがすがしさを

運ぶ

お清めの雨の後

足取りも軽く

本来のいくべき道に

赴くことが

ようやくできそうなことに

感謝の気持ちが

わき上がってくるのを

押さえることが

できません

一年前に、戻った

いいえ・・・

その上を通過しているのです

ようやく・・・

そして

ここへ

帰ってこれたことを

主に感謝します

# 美について

---

美とは

清らかさからくる

無私性

静けさからくる

柔和な優しさ

足せない

しかも

これ以上

引くことも出来ない

単純さ

今の環境のなかに

---

今、苦しいと

感じている人もいるでしょう

今、この場から

逃げたいと思っている

人もいるでしょう・・・

けれども

今、このなかに

この環境のなかに

私の、あなたの

魂を鍛える何かがある

と信じて

この今を乗り越える

このなかにこそ

自分を鍛えるものが

あるならば

向かっていきませんか

人生は、きっと

この連続です

なぜなら

私たちは、

自分を鍛えるために

この世に来たのだから・・・

## 光りを放つ

---

日常の疲れが

理想をぼやかしてしまう

重い体を引きずりつつも

理想を解き放つことが

できるのかと

自ら掲げた意志が

くじけそうになる

夢を

追い求めていくことで

自らの存在を

明らかにしようと

心を輝かせようと

闇夜を照らそうと

光りを放つけれども

その光りは

受け取ってもらえるのだろうか



暮れゆく時代

黄昏の時

自らの生きる力が

残っているのならば

最後の最後まで

自分自らの意志で

光りを伝えるのみ

この時代のなかにも

確かに芸術家は

存在していたのだと

その残骸を後の者が見つけ

勇気にかえてくれることを

願いつつ・・・

## 芸術の目的

---

芸術とは

人間の精神活動から

発生したものである

ゆえに

人間の精神に

うったえかけてゆくもので

なければならない

そして

芸術とは

その目的を内包し

人間の精神に

奉仕するもので

なければならない

その目的とは

幸福である



## 美と調和

---

美とは

愛の具体化

愛を行う、無私性

その姿が美のあらわれ

調和とは

違いが生み出すもの

草原に咲く花

色とりどりの個性

光りに向かう

その使命を

一心に全うしていながら

その違いが

調和を生み出している

そこに

美と調和を見る・・・

感じ、知り、見極めること

---

詩とは

ひとの

心音を詩うこと

詩を

感じるとは

その詩情と

同化すること

詩を知るとは

言葉の前の

心の種を

見極めること

## 自分を守ること

---

智慧を

いとう者は

悪意に

滅びる

悪意は

人の良さに

つけ込みます

悪意は

智慧の無さに

つけ込みます

知らない

という弱さに

つけ込み

言葉巧みに

奈落へ導きます

智慧を持って

悪意を見抜き

その意図を

見抜いて

自分を守りましょう

それも

人生の技術・・・

悪は

常に善の

消極的な部分を

狙ってきます

善のあるところに

悪はありません

光りを

灯せば

闇は



消えます

私たちは

光りを

掲げさえすれば

いいのです . . .

ひとりひとりの

小さな光りは

結集すれば

大きな

善になり

大きな

愛になりますね . . .

光りの子らへ

---

猛り狂う

日の光

大地は光りに熱せられ

人間は渴いている

渴いているのは

こころ・・・

光り

強さを増せば

影は色濃く浮かび上がる

影を捨て

光りを取れ

そして

光りに近づいていく

それでこそ

光りの子・・・

心の闇を照らし出す光り

その光りに怯えては

いけない

すべてをさらけ出し

すべてをゆだねていく

自我を捨て去り

光りに身をまかせる

ただ、ただ無心に・・・

その時

光りの一部としての

使命を知り

光りは、光りとして

輝く・・・

あなたも私も

光り・・・



そう信じて・・・

---

風に季節を感じる

今の季節のなかに

次の季節の到来を

告げるものがある

今、自分と時代との

関わりを考えて

時代の花として

自分を咲かせる事が

出来ているのだろうか・・・

無心に

そこにあるだけで

自分、自らの使命を果たしている

道ばたの花たち

振り返るものは少ないが

しかし

出し惜しみはしない

自分の力を

ただ、無心に全うしている

その美しさに

心を奪われる・・・

私たちも

一切を捨てて

使命に没頭する

そこに

心の花が咲く・・・

そう信じて・・・

# 未来の芸術

---

昨日の芸術

自然を

モチーフとしたもの

今日の芸術

精神的なるもの

明日の芸術

より高次なるもの

それは、

次なる宗教性

すべては、主のために

---

『主のために

ただ、主のために

すべては、

主のために・・・』

自我を無くしていくことが

自己を構築していくことだと

私は、信じています



## 詩的生活の指針

---

初心 最初の十年

自然時な発露

自己確立 次なる十年

精神的な目覚め

応用 さらなる十年

より高次なるものを目指して(枠にとらわれず)

完成 もう十年

宗教的なものとして、最高の美をあらわす

独創 最後の十年

人類の英知、智慧として

そして、また次なる段階へ・・・

## 詩人の方法

---

詩人になりたいと

よく聞かれます

詩を書くには

どうしたらいいですか

と聞かれることがあります

今すぐ

書くことです

そして、ひとつの

作品として

できあがったら

もう、詩人です

悩んだら

そのことを書くことです

どうすればいいのか

と苦しんだら

それを書くことです

あなたは、もう

詩を書いています・・・

## 芸術の主題

---

芸術、つまり表現行為とは

自己を客観化することであり

客観化するがゆえに

自己をも他人をも救うことになる

と考えます・・・

悲しみや苦しみ

そして、叶わぬ恋心・・・

芸術の主題は

人類の共通の精神・・・

そして、そこから

自由になる方法として

それ自体を俯瞰して見ると

その瞬間、心は

とらわれから去り

気持ちが軽くなる・・・

芸術の翼は

人の心を重しから

解放してくれる・・・

あなたの悩みは

あなただけのものでは、ありません

過去人も

同じように悩み、傷つき

苦しんだ・・・

その結晶がある表現をとまなうとき

芸術作品と呼ばれ

後世に名を残すのでしょうか

それは、

人々を救い続けた

軌跡でもあるのでしょうか・・・

# 生命を言葉にかえて

---

詩人は

人から、他人から

何も求めては

いけない・・・

この世からも

何も求めては

いけない・・・

詩人は

この世に

与え続けに来た・・・

生命を

言葉に

かえて・・・

君はなぜ

そんなにはやく成功したいのか

君はなぜ

時間が早く過ぎ、

いちはやく成功したいと思うのか

君はなぜ

努力を惜しんで、結果だけを望むのか

人は、努力する過程にこそ

得るものがあるというのに

人は、努力する習慣を

身につけることに

成功の秘訣があるというのに

はやく成功することによって

もし、努力をしなくなってしまうのなら

それは、人生において

失敗しているのかも

しれないね・・・

成功している人は

その成功の中でも

努力を楽しんでいる

いや、

努力を楽しんでいるからこそ

成功という結果に左右されず

常に、過程における

自分の姿勢を

いつも振り返り

さらに、努力しようと

心がけている

さあ若者よ

努力を楽しもうではありませんか

長い努力の中を

自分自身の意志と熱意を



試そうではありませんか

時間は

その思いが

本物かどうかを

わからせてくれる

ふるいです

時間に

果敢に

勇敢に

挑戦しよう

人は、永遠のなかを努力するとき

その姿勢を有したとき

自分のものとしたとき

成功したと言えるのかも

しれませんね・・・

# 冷たい雨

---

冷たい雨

降りしきるなか

未来は閉ざされたかに

みえる・・・

暗い空の向こうに

太陽が輝いているなんて

雨音が希望を

かき消している

人々は

家の中にこもり

身を守るのに

精一杯だ・・・

人通りも寂しく

雨音だけが鳴り響く

街から色が消え

生気がなくなってしまったかのような

静けさに

胸の鼓動を感じる

もうすぐ

雨はやみ

雲は晴れ

日は輝き

花が綻ぶ・・・

この静けさのなかに

確かに

春の足音だけが

響いている・・・

## 真理と想像力

---

真理を知らぬ

芸術家は

自らの想像力に

つぶれる

信じよ

---

春の浅さに

不安と希望

混沌とする

今は、現実の幻

一時の宿りに

人は、すべてと見え

この世の生きやすさを求めては

渴望し、代償は虚しさで

支払われる・・・

相対的な

ものごとの変動に

自分の心も変動して

落ち着くときがない

真理は

説かれ

真の価値は

その姿を現してはいるのだが

心の曇りが

邪魔をして

そのものを隠してしまっている・・・

それは、

真理のせいではなく

心を曇らせている

ものの罪である

拒絶する心は

光りに背を向け

暗闇を見つめ

ためいきをつくけれども

その原因は

心が知っている・・・

この時代に

新たなる地球世紀のはじまりに

立ち会っている事実

動くことのない真実である

永遠の生命は

それを信じる信仰によって成り立ち

享受することができるのだから

信じること

そこから、すべてが始まります

信じること

それがこの世に生まれた意味を

明確にしてくれます

## 創作について

---

それを創ることによって

どう思われるかということ

考えては、いけない

この世の価値に邪魔を

させてはいけない

心にあらわれた

言葉を綴ること

素直に

心のくもりを取り除き

引っかかりのない

清流の如く

サラサラと書くこと

その時が来たのだ

自分の本来の仕事をするときが・・・





後から来る君へ

---

誰もいない客席

シーンとした空間

そこに響くのは言葉だけ

ありったけの念いを

言葉に変え

明日の君に伝えている

この時代の意味を

今、この瞬間を

魂それぞれにとっての

かけがいのない

今を

新しい世紀の日の出とともに

確かに

それに気がついていた芸術家が

いたことを

それを語り続けていた詩人がいたのだと

私は、後から来る君へ

証しを残したいから・・・

## 雑音

---

雑音は多い

邪魔をするものは

数限りなくいる

この世の中で

自分の信念を貫くことは

難しい . . .

けれども

自分の信念の確かさを

試されるがごとく

立ち現れる

不安の影 . . .

それは

自分が創りだしている

幻影なのか

現実なのか . . .

自分の確かさは

揺れる・・・

大勢のものが

一緒に歩いているときは

気がつかないかもしれないけれども

ふと気がついてみると

独り・・・

誰もいない・・・

それに耐えてこそ

真の強さと確信を

手に入れるのだ・・・

道は、まだ遠い・・・

やがて来る日のために

---

夏の陽ざし

初夏の香り

午後の気だるさ

夕暮れ前の一瞬

日の眩しさに

目を細め

肌を刺す光りに

その存在の明らかなさを知る

季節の移り変わりの

確かさに

必ず巡ってくるその季節に

自分の運命を重ね合わせる

今の孤独は

やがて到来する季節の前の

沈黙なのか

そう信じ

そう信じていく

未来を創る今に

少しの不安

心の支えは

信仰への情熱

やがて来る日のために・・・

## 揺るぎなき信仰

---

この世に何をしに来たのか

それを問われる毎日・・・

日々、忘れそうになる

本質は、かすかな光りが

偽りの輝きにかき消されていく

いつしか

物質本来の生存に

流されていくだけの自分を

発見するとき、涙が流れる・・・

こんなにも

信仰を持ちつつづけるのは

厳しいことなのか・・・

揺らぐ自分の弱さに

情けなくなる・・・



一日一日を

少しずつ確かなものとして

ひとつひとつを大切にしながら

ときには、振り返り

足どりを修正して

いつしか、しっかりと

揺るぎなき信仰を

自分のものとする・・・

## 汚れた心

---

地上に生きるということは

それだけで、戦いである

日々、信仰を持ち続ける

心の強さを獲得することである

肉体に宿りたる魂は

弱くはかない

清らかな心は

肉体から発生するところの

煩悩に流され

火がついたように

理性を焼き尽くしてしまう

心は

肉体そのもののよう

その本質を見失い

ときには

自分が自分で無くなるような

火の車になる . . .

遠くに

瞬く

美しき星々 . . .

暗闇を輝かす

おまえの光りで

私の汚れた心を

洗い流してくれ . . .

と願う . . .

哀しき性に . . .

苦しき生に . . .

いつしか

静寂は

訪れるのか . . .

魂は、本来のありかたを忘れ

遠くへ来てしまったかのように

離れてしまった・・・

私たちは

この地上に来たのだ

自ら望んで・・・

今は忘れているけれども

確かに、自らの意志で

こり地上に舞い降りた・・・

自らの魂を鍛えるために

自らの悪しき傾向を変えるために

自らの魂の学習のために

自らの魂の発展のために

この地上の生に埋没してはならない

生きるためだけに命を使ってはならない

ここに来た意味が失われてしまうから

仏の慈悲によりて

永遠の生命を与えられしものよ

その愛に報いよ

その慈悲に答えよ

それを問い続け

それに答えていくことが

すなわち

地上での生きる意味でもある・・・

揺れ動く心

その心は肉体の欲求に

翻弄され

肉体に隷属されてしまう

本来の心

自由な心

それは清らかな

美しき調和に満ちた

かるやかさ・・・

本来の世界が

果てしなく遠くに感じられる

果てしなく実感のない世界に

感じられる・・・

地上での年月は

心が地上での生活を

しやすい方へと

流され、馴染み、染まっていくようだ・・・

しかし

霊的な魂は

それを許さない・・・

霊肉の葛藤・・・

この矛盾を抱え込む

地上という場は

おそらく・・・

自分自身でそれを解決してゆくことに

終止してしまうけれども

それを越える何かを

示すことができたなら

自分を許すことも

必要なかもしれない・・・

それが、詩人

---

無意識の衝動を明らかにし

種の保存法則を越えようとし

その欲望を自覚し

それと向き合う者

それが、詩人



## 思い続ければ

---

きっと君も

僕を通り過ぎていくことだろう

一時の青春だったと

熱に浮かされた日々だったと

きっと君も

僕を忘れていくことだろう

あれは幻に違いないと

あれは幻聴の蜃気楼であったと

人は、一時考える

理想や夢

美しきおもい、気高き精神

しかし

現実の中を

探してみても

どこにも見つからないと

嘆き

それをあきらめてしまう

しかし

現実にはない

それは、君の心にある

だからこそ

思い続けなければ

そこで、終わる・・・

日々、発心

日々、出発

日々、新生

日々、反省

日々の修行こそが

自分を創る

日々、怠ることなく

自分を創り続ける中にこそ

自分がある

だから

その自分は

日々の中にあるがゆえに

日々の精進こそが

自分であるという

思いこそが

自分の怠け心の

防波堤となる・・・

日々の精進こそが

自分であると

自分そのものであると

自分を戒めることが

自分を守ることでもある・・・

自分の愛とは・・・

---

愛は、与え続けるのみ

それでは

自分の愛とは・・・

という問いに

自分自身がどう答えるか

その答えが

今世の自分の愛のおもいを

決める

自分が何を愛したのか

その行為に何を込めたのか

その愛は、無償であったのか

見返りという砂塵を

その愛に混ぜなかったのか

その愛は純粹であったのか

そして、与え続けたか

反応がないからといって

諦めはしなかったか

反応がないからといって

憎みはしなかったか

反応がないからといって

裁きはしなかったか

反応がないからといって

悪としなかったか

愛は

自分の問題である

自分と仏との問題である

仏の御前で

恥ずかしくなく

卑しくなく

きたなくなく

堂々と

善に満ち

美に満ち

愛に満ちた祈りへと

昇華するとき

そのおもいは

仏の願いと

同化する・・・

## 光りが迸る

---

人は、どん底にいるとき

本当の孤独に、

ひとりの弱さに、

直面する . . .

誰かに

助けを求めてみても

手を握り返すものはなし . . .

その暗い淵のなかで

喘いで、ひざを抱え

うつむくか . . .

それとも

目に見えぬ

仏を信じるか

その光りと影の間で

自分の心の決断を



問われる . . .

信じるか

信じないのか

この二つにひとつの答えは

自分自身への

大いなる賭けとなる

ならば

信じよ

その時

心の奥から . . .

闇の底から . . .

光りが進む . . .

信じよ、仏の愛を

---

仏は

ひとりひとり

固有の人間を

優しい眼差しで

見つめている

その今を切り取り

裁くことなく

見つめている

嘆くな

今の自分を

嘆くな

罪深き者よ

宇宙を見よ

その広さを見よ

その果てしなさを見よ

計れる事なき

宇宙よ

その漆黒の光りよ

エネルギーよ

それよりも

大きな仏の愛よ

身を投げよ

身をまかせよ

小さき小さき人間の

小さな小さな罪など

どこにあるのだ

扉を閉ざす

我など捨て去り

解き放てば

光りは迸り

光りとひとつになり

その力は

人間の及ぶところではない

信じよ

仏の愛を

その瞬間

あなたは、あなたとなり

私は、私となる・・・

## アレンジ

---

創造は、された

されているのだ

それをどうアレンジするかだ

もう生み出された

されているのだ

ゆえに、それをどう育てるかだ

そこに

芸術家の使命がある

私たちが創りだすものなど

主の創造にくらべたら

小さく、儂いものだ

芸術家よ

戒めよ

自らを・・・あるじとしてはならない

芸術家よ

慎め

自惚れてはならない

私たちは

創造された材料を

ただ、お借りするだけなのだから

## 詩人としての誇り

---

人間の愚かさを儚んで

主は降臨された・・・

自ら、この汚辱に満ちた

地球に降りられた

主は、驚かれた・・・

これほどだったとは・・・

こんなにまで人々の心は、荒廃し

時代が底を打たんとしていたのか・・・と

人々は、そんな愛を知らず

不平と不満をぶちまけていた

自分だけの快樂に

他の人々の幸福など考えもせずに

他の人を傷つけ

傷つけられた人は

また、誰かを傷つけ

お互い血を流し合い

愚かな戦いを繰り広げている

人間の欲望は

とどまることを知らず

もうすぐ、地球を破壊する

一歩手前までできていた・・・

主は手を掲げ

癒しの光りを放ち

主は手を掲げ

愛をよみがえらせ

主は手を掲げ

善なる力に勇気を与え

奇跡を起こし給うた

暗黒は、光りの前に

姿を消滅させ



地球は光りを取り戻した

私は見た、主の力を

私は見た、主の奇跡を

私は見た、主の愛を

私は見た、主のお姿を

遍く宇宙に広がり統治する

大いなる仏の降臨を

私は、詩人として

この真実を伝えられたことを

誇りに思います・・・

早く知らせなくては・・・

---

人間は

いつの間にか

自分自身を王者と勘違いし

その権力に酔っていた・・・

その玩具は

離しがたく

握ったその手を

誰も離そうとはしなかった

それを

手に入れられなかった者は

跪くしかなかった

逆らえば

その玩具の

慰み者になるしかなかった・・・から

正義は、消え失せ

真実は、曇り

事実は、歪曲し

現実には、ねじ伏せられていた

しかし

真理は、説かれた

説かれた真理は

無常の風のなか

真理以外のものを

終わらせていく・・・

普遍なるものだけが残り

幻は、姿を消す・・・

河原で石を数えている

子供達には、早く知らせなくては・・・

あなたが大事に

抱えているのは

ただの石なのだよ・・・と



影を消すために

---

自分だけが愛されていたと

錯覚していた子供の頃

放り出された

現実には

愛は相対化され

愛されるものと

愛されないものに分けた

愛されるものは

さらに愛を集め

愛をつかみ、愛を離さない

愛されない者は

すべてを奪われ

憎まれ、蔑まれ

バカにされ

壊されて笑われる

人間、一人ひとりに備わった

プライドは、

低くみられれば、見られるほど

自分の心では高く高くそびえ立つもの

幻影は、妄想と化し

その高みは、頂点を極める

相対的な現実を逃れ

人は、心のなかで王となる

その憎しみでできた

プライドの怪物は

誰の心のなかにもある

影・・・

その影を

消すために

光りを灯す

真理の光りによって・・・



また、はじめから

---

今の環境を

最大限に生かすには

今の状況を受け入れること

今の自分の状況

今の社会の状況

今の国家の状況

今の地球の状況

このすべてのありのままを見て

そして受け入れて

自分の立っている位置を

確認する

すべてを見るのは

難しいけれども

誤魔化して、自分の見たいものだけ

見ていくと、その現実には



自分の見ている方向でしか

見てないことになってしまう

結局は、自分を見る鏡を失ってしまう

自分を映す鏡を失えば

現実を無視した幻影に

惑わされ、コントロールを失っていく

自分の現実を違った架空の姿に変換して

楽しんでいるけれども

その映る姿は、本当の自分ではない・・・

自分の真実の姿は

虚飾をはぎ取った

謙虚なありのまま・・・

それを悔いてはならない

それを嘆いてはならない

また、はじめから

はじめればいいのだから・・・



## 不動の精神

---

人間だから

罪を犯すこともある

失敗をしてしまっていることもある

けれども

そこから、どう立ち上がるかを

試されている・・・

挫折の原因は

必ず、自分のなかにある

過度に愛を求めなかったか

過度に評価を求めなかったか

過度に欲くしていなかったか

考えてみれば

思い当たることばかり

ならば

それを少しずつ修正していけばいい

決して、多くを望まず

完璧を理想とせず

ひとつ、ひとつを

慎重に積み重ねていく

そこに

動かない

不動の精神ができあがっていく

それが

成功のステップではないかと

私は、考えます

日本人は、何千年も

日本語を使い続けています

途中でとぎれることもなく

断絶することもなく

外来語の侵入にも耐え

日本語は、日本語のまま

在り続けてきた・・・

日本人は、日本人のアイデンティティーの

なかで、日本語を使えるという

重要な要素を忘れているのかもしれませんが

母国語で、学校の授業を聞けるよろこび

母国語で、出版物を読めるよろこび

母国語で、語らえるよろこび・・・

他の占領された国々では、

他国語を強要されてしまった国が

数多くあります・・・

私は、日本を愛するとは

日本語を愛することと一緒にだと

考えています・・・

こんなに

美しい言葉は、他にはありません

しかし・・・

日本語の曖昧さを指摘する方も

いらっしゃることと思います

はっきりと伝わらないと

イライラする方もいるでしょう

そうです

日本語は、詩的な言葉だからです

和歌で発達し、洗練されてきたから

余韻で語ってしまうのです

その波紋のささやきが分かる

それが日本語が分かる

ということではないでしょうか・・・

世界に類を見ない

言霊の幸わう国

それが、日本だからです

詩人にとって

一番大切なことは

心の清らかさを保つということです

これは、一種の戦いです

私たちのまわりには

欲望を刺激するもので

あふれかえっています

それらをどう律していくか

どう選別していくか

己の判断に委ねられています

特に

心の世界は、誰にも見られません

一人でいる時を、その心情を

見られることはありません

また



それを問われる事ありません

ただ

自分は、知っています

自分が何を思い、何を考えていたかを・・・

それに対して責任を取らされることも

ないでしょう・・・

けれども

必ずあらわれます

その目に、その後ろ姿に

そして、その詩に・・・

この戦いに

終わりは、ありません・・・

一秒一秒が常に勝負なのですから・・・

人を変えることはできません

ならば、自分を変えていくことです

自分自身の心に問うて

自分自身の心に正直に

そして素直に生きていくことです

人の批判をして

自分が高くなっていくと感じるのは

間違いです

それは、自分でそう思っているだけです

人の良いところを自分に取り入れて

そして、自分を高めていく方が

必ず、自分自身のためになります

詩も同じです

他者の存在よりも

自分を追求していく中に

自分だけの言葉が

言葉の源泉に突き当たるのです

そこにある無限の詩泉から

言葉は、湧き出してきました

自分を徹底的に見つめていきましょう

他人の良いところを吸収し

自分を高め、深めていくなかに

あなただけの詩が

出口を求めて待っているはずです

その中を歩いている

---

君、ひとりが生きるために

どれだけの愛があったかを

考えて欲しい・・・

君は、自分ひとりだ

誰にも理解されていないと

考えている

『自分なんか、いない・・・』と

思っているのかもしれないけれど

この世の中に『いない』ものなんてないし

君を阻害するものもない

君は、自らが裁きを下して

みんなから離れているだけだ

そんなに愛されたいのなら

そう言えばいい

素直に、真っ直ぐに

卑屈にならずに

愛を下さいと、大きな声を出せばいい・・・

君のありのままを愛してくれる人は

君の状況にかかわらず

君を愛している

落ち着いて

考えて欲しい

苦しんでいるのは

君だけではない

悩んでいるのも

君だけではない

生きている人たちは

みんな、その中を

歩いているのだから・・・

## 愛について

---

肉体を通してしか

自分を表現できない

その限界に挑んでいくのが

この世に生まれてきた

意味かもしれない・・・

私たちは

いつも、この肉体につまづく

密接に本能と結びつき

それを気づかぬように

無意識のなかへしまい込んで

しまうから・・・

文化の香りで

カモフラージュして

動物的な衝動を

覆い隠している・・・

しかし、

生存欲求でしかない

心の衝動は

その醜さゆえに

錯覚を起こさせる・・・

直視できない現実を

幻想で包んでしまう

愛という錯覚は

本来の愛とは違い

欲望を満たした瞬間に

消える幻だから・・・

本当の愛に

衝動はない

相手を傷つけることもない

相手を破壊することもない

本当の愛は

そのなかに

必ず、知と美があり

衝動性は、微塵もなく

長く長く、とても長い時間を

貫いている

愛するという意志なのだから・・・



## 心の隙間

---

肉体から発生するところの欲望は

日々にわきあがる

心はいつも

それに振り回され

いつしか心は

肉体に従っていく・・・

普通に生きるなら

それもいい・・・

ひとつの生を全うするなら

それもいい・・・

なぜ

人間は

それ以上を

それを越えようともがくのか・・・

動物という枠のなかから

それを越えようという精神は

崇高なるものとして

心の奥からわきあがる

その美しさゆえに

その清らかさゆえに

動物的なる自分と

際限のない葛藤を

繰り返していく

日々が戦いである

聖なるものと俗なるものが

心のなかで激しくぶつかる

一瞬たりとも

気を抜いてはいけない

俗なるものの激流は

心が隙間をあけた瞬間に

一拳になだれ込んでくる

穏やかなる境地を目指して

日々の精進が自分を守ってくれる

生かされていることに感謝して

努力する精神を報恩として

心の隙間をうめていく・・・

## 自己責任のなかで

---

時々、世の中の喧騒から遠ざかり

自分の廻りに起きている出来事を

客観的に眺めてみると

人間の思考が、ある方向に

寄せては、引いていく波のように

絶え間なく揺らいでいるのがわかる

その渦中にある私たちには

何のことだかわからずにいることも

その方向に何があるのか

何処にいこうとしているのかが

垣間見えることもある

私たちは、不思議なことに気がつく

それは、真理が

わざと見つけにくいところにある

宝物のように、その姿を隠している

しかし、その実は

私たちの心がそれに気がつけるような

心の準備や経験を待っているようにもみえる

つまり、私たちが

愛や優しさや智慧から

離れれば離れるほど

自分からも真理からも離れていく

結局は

真理を発見することは

自分を発見するプロセスなのかもしれない

自分自身のなかに埋もれている宝物

それを発見するための仏の配剤

押しつけられることなく

発見するのは、自分しかいない・・・

自己責任のなかで・・・

## 新しいノートを開いて

---

この世は

仮の宿りです

ゆえに

今の現実に絶望してはいけません

その現実こそ

今、あなたに必要な現実なのです

そうです

その現実こそ、あなたの悩みであり

あなたの問題なのです

この問題から

逃げるわけには、いきません

なぜなら

その問題を解くために

この世に生を受けたからです

これを拒否すれば

また、この問題を解くために

同じような状況におかれることでしょう

あなたの心のなかだけで

大きくなっている、その悩みは

あなた固有の問題であり

あなたの魂を鍛えてくれているのです

虚無にとらわれ

生きる意味を失い

暗闇に閉じこもり

そこが自分の居場所だと

錯覚してはいけません

この世界は、光りにあふれ

よろこびとともに生まれたのですから

私たちが背を向けているだけです

さあ、取り組んでゆきましょう

その問題は

新しい参考書であり

新しい教科書です

新学期の新しいノートを開いて

その瞬間のうれしかった

気持ちを思い出して、取り組んでゆけば

解答するよろこびは

あなた自身にかえってくるはずです・・・



愛が届きますように

---

詩を書き

発表してゆくことが

私にとっての

与える愛であり

そのために

日々、自らを律することによって

日々、心を清らかにしてゆく

この愛が

透明になりますように

私利私欲が含みませんように

読んで下さる方を

癒やし導くことができますように

より多くの人に

愛が届きますように・・・

主の御許へ誘えます様に・・・

## 本来の自己と対面したしるし

---

心の清らかな人は

自らの汚さを知っている

自らの醜さを知っている

その部分から

決して目をそらさずに

その現実を直視し

向かいあおうとする

逃げることなく

何かを創り出し

それで、覆い隠そうともしないで

真っ直ぐに見つめる

だからこそ、つらい

だからこそ、苦しい

だからこそ、悩む

それが、本来の自分を

取り戻す行為・・・

真理の力によって

反省の許しのなかに

自己を見いだす

そこに光りを見たなら

本来の自己と対面したしるし・・・

## こちらとあちら

---

私たちは、いずれ死にます

それは、まぎれもない現実です

決して避けて通れない道

誰もが、そこへ向かっている

生きているものすべてが・・・

死は、誰のもとにもやってきます

平等に、ひとしく・・・

善き人にも悪しき人にも

この世に生を受けたら

誰も逃れることのできない

ルールです

それを

どう捉えるかが

その人、それぞれの人生を決めていく

そこに、希望を見るか

絶望を見るか

そこに、慈悲を感得するか

神なきを嘆くか

詩は、死を肯定します

詩は、生を肯定します

詩は、死を受け入れます

詩は、生を受け入れます

それは、どちらも

ひとつの世界の

こちらとあちら・・・

此岸と彼岸ゆえに・・・

## 和音

---

人間と人間が

衝突する . . .

意見の違い

思いの違い

表現の違い

そんなにまで

自我を拡張し

そんなにまで

守る自我の意味は . . .

あるがままの自分と

向き合わずに

他人とぶつかることで

自分を見いだそうとする心は

自分をさらに

追い込んでいる . . .

その違いこそが

その違いを認めることが

寛容であり

その違いから

和音となり

美しい調べとなるのに・・・

# 転化

---

厳しい

深き深淵

淵の底

落ちて2年の長い月日

また、還ってこれた

魂の危機

自分を

見つめなおすことも

出来ぬ

忙しき忙殺の日々

しかし

この世の生業に

かこつけた自己弁護・・・

そんなところから

救ってくれたのは

真理の言葉と読む習慣



また、いつ

迷いの淵に落ちても

何度でも

帰れるように

真理の言葉を

魂に刻みつけ

詩的生活に転化して

己の糧としていきたい・・・

## 精進への没頭

---

男子にとっての悩みは、

似たようなもの

ある程度決まっている

欲望の総量は、変わらず

皆、自分を持て余す . . . .

そこから

脱出するには、

真理の蓄積

真理の経験

真理の確信

だと思われま

ますますの精進への没頭を

お勧め致します

## 雨の匂いか

---

雨の

匂いか

それとも

内向的になろうとする

心か

いくつもの青春の残像が

見えてくる

そういう思いが

出ること自体が

初老だと

思われるが

それを認識しつつも

この世に

思いを巡らせ

ひとつひとつ丁寧に

反省していく行為は

心が

内に向かっている

ときには

もってこいの

行為なのかもしれません・・・

明日は、午後から

雨の予報だそうです・・・

## ケミストリー

---

ある人物が

加わることによって

新しい変化が生まれる

それを

異質と思うか

それとも

ケミストリーと考えるかは

受け取り手の心境に

左右されるのかもしれませんが

人生は

出会いに満ちています

そのことに

ストレスを感じ

放棄してしまうか

それとも

自分の器を広げる

ひとつの経験とするかは

本人次第ですよね . . . .

今日は、どんな人と出会うのか？

どんな本と出会うのか？

毎日が、新しい出会いのはじまり . . .

万年筆

---

時々

恋でも

したかのように

万年筆が

欲しくなる

朝、目を覚ますと

欲しい

万年筆が

現れてきます

いつも

そうですが

買えそうで

買えないぐらいの

値段のやつが

欲しくなるのです・・・

突然欲しくなるのです

私を呼んでいるのでしょうか？

それとも

呼ばれているのでしょうか？

と考えること自体

執着なののでしょうか

この癖

直さないとなあー



今日は、

風が強く

危険なので

仕事は中止して

帰宅しようと思います

そして

ゆっくり

昼寝して

余裕を楽しみたいと

思います

何か

歩らない時は

地に足つけて

のんびりと

いこう

あくびを

噛み殺して

がんばるよりは

静かに目を閉じよう

すこし

身をまかせ

こころを遊ばせて . . . .

今を実行に

---

悩み事が

ふと解決するとき

なにか不思議な力が

働いているような気がいたします

そのとき

自分だけで生きているのではないのだな—

と実感いたします

だからこそ

自分の人生を

自分のためだけに使うのではなく

他の人の役に立つべく

使うことも

大切な考えのひとつであると

思われます

なぜなら

ひとりでは、生きられませんよね

止まるのは

またにして、

今を実行にうつしましょう！

## 冷静に、分けて考える

---

自分に出来る事と

出来ないことを

分けて考えよ

と主は、教えておられるが

時々というか

しょっちゅうというか

どれもこれも一緒に混ぜてしまい

焦る気持ちや

怒る気持ちが

渦をまくように

心の中に

台風をつくる

過ぎるのを待つべきか

そうならないように努力すべきか

そのものごとを

瞬時に

自分のできる事と

出来ないことに分け

書きすぐさま整理して

理性的対応をとる

それが

心の鍛錬しだいの

実力のあらわれならば

私は、感情だらけの

絡まりすぎであると

思われます・・・

冷静に！

物事を分けて

整理して！

## ダークサイド

---

相手のペースにはまって

暴言を吐いてしまう

沈黙こそ最大の防御と知りつつも

つい・・・

昨日は、そんな日でした

相手に自分の考えを述べるのは、

相手の意図を正確に読まないと

その意図に、振り回されるだけに

なってしまう

その相手が混乱だけを望んでいるとしたら

やはり、沈黙こそ

最大の武器だと思います

疲れていても

心を統御し

支配し

相手に、支配されないように・・・

悪意を読み

それに、付け込まれ

ダークサイドに

引き込まれないように・・・



## 悩みの本質

---

心の安定は

なかなか得られない

いろいろな思いが交差する

将来の不安はぬぐえない

けれども

自分にできる事は

そのときのために

準備を怠らずに

すること

きっと心は

悩みたがる

だからこそ

それにも

引きずられてはいけない

おそらく

心の中の本当の悩みを

他の悩みにすり替え

本質をごまかそうと

している自分に気づくとき

悩みは、

踏み台へと

変わる時かもしれない . . . .

悲しみを乗り越えようとして

新たな悲しみを招くこともある

人間として、愚かというには

あまりにも

子供すぎた

心は、

荒む

いっぼうな

自分のなかで

人間の気高さを

信仰がとどめてくれる

人間として

品性を保つには

心の中の信仰を

明確にして、生き続ける中に

香りたってくるのかもしれない

## 万年筆病

---

万年筆欲しい病が

また

出てきた・・・

今、使用しているのは

用途別に

真理学習用・・・デュオフォールド

詩的生活の方法・・・ドルチェビータ

精進の証・・・ブルー・オー・ブルー

詩・・・セーラー長刃エボナイト

詩書・・・長原名人作長刃限定

とお小遣いを貯めて

徐々にそろえて

きました・・・

25年間コツコツと

創作し、

UPしていないノートが

まだ三冊もあります . . . .

がんばらねば

## 大きな贅沢

---

仕事が終わって

散歩しながら

本屋めぐりするのは

楽しい・・・

本屋さんにも

それぞれ個性があり

その個性と

相対時するのも楽しい

よく行く本屋さん

自分の書棚を

自分で勝手につくり

その動きだけでも

チェックするのは、

自分だけの喜びです・・・

小さな自己満足に浸れます・・・

散歩と読書は

少しのお金と

少しの時間の

私にとっての

大きな贅沢です



## 後ろ姿に

---

街を歩いていると

人それぞれの境遇

価値、表現、ファッション

その人自身の個性が

すれ違う人ごとに

違いが伝わってきます

特に、女性など

一枚のブラウスを

選ぶのに

真剣に悩む姿を見ていると

生半可な気持ちでは

批判することは

失礼でしょう・・・

男性でいえば

後ろ姿でしょうか・・・

誤魔化しのきかない

ところでしょうか・・・

締まっていきましょう！

# 不理解

---

人間同士の不理解

誤解、意見の違いが

どうしても現れる

意志の疎通の難しさ

一生懸命に話したとしても

互いにズレていくもどかしさ

やはり

言葉は

難しい

特に、会話は

ちょっとした

感情がでた、表情が

気に入らなければ

終わりになってしまう

更に

傷つけ

更に

怒らせて

しまうなんて・・・

## 自筆の文字

---

万年筆売り場に

立ち寄ると

以外に

混雑していて

少し、驚きます

皆、デジタルとの

バランスで

アナログなものへの

揺り返しなのかもしれません・・・

不思議なのは

文字です

その人なりみたいなものを

感じます

外見よりも

字に出る事もあります

何か

裸を見られているようで

恥ずかしいと

私は、思ってしまいます・・・

そのひとの

自筆なんて

最近、あまり

見なくなりましたね・・・

樹木は

生育することのない

無数の芽を生み

根をはり

枝や葉を広げて、個体と

種の保存に有り余るほどの養分を吸収する

樹木は、この溢れんばかりの過剰を使うこともなく

自然に還すが、動物は、この溢れる養分を

自由に嬉々とした自らの運動に使用する

このような自然は、その初源からの生命の

無限の展開に向けての序曲を奏でている

物質としての束縛を少しずつ断ち切り

やがて、自らの姿を自由に変えていくのである

シラー

横浜にいったとき

新しい発見がありました

## The Boundaries of the Limitless（無限の境界）

みなとみらい駅のあるB3Fから、

Queen's Square YOKOHAMAの

2Fクインモールに登る長い

エスカレータの横にある大きなオブジェ。

大きな石板に書いてある詩です。

ベートーヴェンの交響曲第9番の詩の作者として

有名なフリードリヒ・シラーが

デンマーク王子アウグステンブルク公に

あてた書簡第の一部だとのこと。

オブジェをつくったのは、

ジョセフ・コスースさん

スケールの大きさに驚きますが

シラー様が

こんなところに、おられるなんて・・・

言葉も美しいですが

題もいいですね

無限の境界



境のない

心の世界

希望や光は

まず、人の心から

ですね . . . .



落ち込んだ時には

---

深夜に仕事をしていると

昼間に時間を戻す特に

最近

強烈な

時差ぼけを

感じてしまいます

ふさぎ虫が

心の中に

生まれ

パクパクと

エネルギーを

食べられてしまうようです

そうした時は

日常の変化や

季節の移り変わりを

心が

遅れて

反応する感じが

とても

きつい・・・

落ち込んだときは

その時点を

切り取らないで

違う場면을

設定しなおして

色を塗りなおして

大きな局面にしてしましましょう

未来に向けて・・・

かるみ

---

肩の痛みが

なかなかとれず

四十肩か？

と

今更ながらの体験に

少しびっくりしています

実際

万年筆を

持つのもつらいです

でも

筆圧がさがって

いいかもしれません

つつい力が入ってしまう性質なので

さらさらと

書けるようになればいいなと

思っていたところです

力の抜けた

かるみこそ

今後の人生のスタンスとして

行こうと

気楽に考えたいものですね

深刻になりすぎるも

よくないですよね・・・

勇気を下さい

---

雨の

降る音が

響き

道路が

光に濡れている

心に空いた

穴を

埋めようとするが

何を

入れたらよいのか

分からずにいる

何か

人の役に立ちたいと

思いながら

そこから

抜け出せずに

いるのは

自分に

甘えているから・・・

主よ

あと

少しの

勇気を

下さい・・・



## 詩的生活の方法という題について

---

詩的生活の方法と題して

詩、そのものではなく

詩について

その周辺の出来事や

考え

創作時の悩みや環境への

厳しい状況に対しての工夫など

遅れてくる

詩人たちに

ヒントが残せたらいいな

と思い

つらつらと

文章を綴っています

決して

豊かで

順境ではない

今を

諦めないで

一日

一行でも

一字でも

書いて

繋いで行こうという

意思を

感じてもらったら幸いです

でも・・・泣き言も

多いかなあ・・・

## バランス

---

文章を

書いていると

だんだん

詩みたいになってくる

多分

四十年近く

書いているから

思考自体が

そういうふう

なってしまうと

自分でも思うときが

ありますが

それを

あまりにも

先鋭化させてしまうと

この世では

行き難くなってしま

自分のなかで

うまく

退行現象を

意図的につくらないと

壊れてしまう・・・

肉体と精神の間で

ゆれる魂は

偏りすぎれば

不幸になっていきます・・・

バランスが

大事ですよね・・・

## 努力の意味

---

今、現時点での

失敗や挫折を

深く考えない方が

いいかもしれません

その状況を

自分の努力不足と捉えれば

無限の向上への道が

開かれる

結局

人間は

努力し続ける方向に行くのが

いい

謙虚に

自分を振り返り

努力そのものが

楽しくなってきた時

きっと

新しい地平に導かれる

そこへ

行くまでの

努力する練習・・・

主が

努力せよ

といわれる意味が

ここに

隠されているのでは・・・

詩を書くしかなかった

---

スポーツも

だめだった・・・

勉強もダメだった

歌は、ヘタだった

楽器も弾けなかった

絵も描けなかった

詩を書くしか

私には

なかった・・・

# 払拭

---

今を生きる大切さ

この時間を使って

この瞬間を使って

この肉体を使って

未来へ橋を架けていく

過去からの

後ろめたさも

未来への

根拠のない不安も

今を生きることによって

払拭してゆく

生命ある限り

今を生きる！



## 時のスピード

---

選ぶものが

多すぎて

時間ばかりが過ぎてゆく

すると

だんだんと焦り始め

時のスピードに負け始め

後ろを向く

何が足りないかなんて

言われなくても

分かっている

なのに

どうして

まだ

動けないんだ

もう少し

待っていてくれてもいいのに

時は

無常に

過ぎてゆく . . .

## 代替え

---

欲しいものは手に入らない

まさしく、その通り

四苦八苦の人生で

心は、騒ぐ

おそらく

自己不満的投影として

その充足として代替えを

求めている

愛のかわりの

何か

やさしさのかわりの

何か

許しのかわりの

何か

そして

満たされない・・・今

苦しいだけだ・・・



いてくれて

---

人生のなかで

よかったことも

悪かったことも

あったけれども

生きていて

よかったと

思えるときほど

幸せなときはない

振り返れば

霧の中

手探りで

生きてきて

色々なものに

ぶつかり

色々なものに

傷ついた

けれども

君が

共に

いてくれて

よかった

シンプルに

---

深夜作業のあとは

頭の回らない

時差ボケが

続く

体内は

フワフワした

状態で

血のめぐりが

悪い感じですよ・・・

今の世の中は

複雑すぎて

若い人には

気の毒なような

気が致します

もう少し

シンプルになれば

世の中も

すっきり

するのではないかと

考えます・・・



## 関の声

---

疲れ果てた日常

ヘトヘトな毎日

いつまで続くのか

いつまで戦うのか

安らぐ時は来るのだろうか

ひと時の

休息

また、すぐにでも

戦いが始まることを告げる

関の声が

忘れていた

安心を

恐怖で

引きつらせる・・・

## 参考書

---

私たちは

何の為に

生きているのでしょうか

その問いは

誰もが

一度は

自分自身に

向けて

答えを出せずに

苦しんだことが

あるはずです

そして

生きていて

さらに

病気になったり

老いてきたり

肉親や愛する人

自分自身の死であったりして

もがきます・・・

けれども

それが

主へ向かう

道標であれば

救われるかも

しれませんね

信仰こそ

唯一の回答の

参考書であるとともに

方向へのしるし

でしょうか・・・

## 逆境

---

中年にさしかかる

肉体が

悲鳴をあげる

夜中の作業のあとの

ものすごい時差ぼけは

やる気を

かぎりなく

0%にする

けれども

世界中で

もっと過酷な環境で

夢を持ち続ける人もいるだろう

もっと苦しみの中で

希望を捨てずに

前を向いている人もいるでしょう

逆境を言い訳にしないで

がんばっている人もいる

私も

そういう人になりたい・・・

## どんなときも

---

今、午前3時

朝、早いと言えは

早いし

夜中といえは

まだ、夜中だし

けれども

どんな時間に働こうとも

その時間なかで

創作をやりくりしていくことが

私の人生の問題集の

ひとつと考えます

生きる為

また、世の中に参加する為の

生業は

少し、最初は戸惑いましたが

なんとか

それはそれとして

時間を調節して

隙間の時間を捻出することが

創作に関しての

自分の課題だと

感じます

まだ、まだ、だとは思いますが

どんな時間に働こうとも

例えば、夜中早朝、5：40～18：00

24：00～9：00 7：00～15：00

と働き

創作に勤しんできました

また、これからも

そうしていきたいと

考えています

生きている限り

自分のなしうるかぎりを・・・

生き血を吸うもの

---

国民のいやがることを

平気で行う

民主党と財務省

税金という

国民の生血を吸う

悪魔

その高笑いが

鳴り響く

憑依状態の日本

幸福実現党よ

その悪魔を吹き飛ばし

貧乏神を吹き飛ばし

日本国民にかけられた

洗脳をといてくれ！



# 1 リットルの涙

---

1 リットルの涙という

ドラマを見ました

本も読みました

主題歌やサントラも購入しました

稀では

ありますが

すべてが合致する作品が

奇跡的に

創られるときがあるようです

配役も

シナリオも

音楽も

申し分なく

見終わった後も

更に

原作に、音楽へと誘ってくれます

「亜也」さんの

前向きの強さと

儚さ、そして美しさが

悲しみと共に伝わってきます

感動する作品は

余韻が素晴らしいと

感じました・・・

1リットルの涙の本を

読み終わりました

最後まで

明るく

自分を高めていこうとする

亜也さんの姿勢に

頭が下がります

治らない病気

それは

どんなに努力をしても

この世では

成果はないよ

という努力

けれども

自分ではそのことについて

徒労に終わったかにみえても

結果ではなく

その過程での

前向きな姿勢が

多くの人々の勇気となる

しかし

それを

自分で体感することはない

それは

動機的美しさを問われるような

心の問題だと

思います・・・

素直に感動しました・・・

3月9日

---

レミオロメンの

「3月9日」という歌があります

1 リットルの涙の挿入歌です

亜也さんが

まだ元気だったころ

指揮をして合唱大会に出るとい

設定で、

原作にはないものですが

それは、作り手の大人になってしまった者たちの

青春に対する

ひとつの清らかな憧憬

かもしれません

若者たちに

そうであってほしい

そして

自分たちもそうでありたい

そう思いつつも

少しずつずれていく

道がそれていく

けれども

その都度

「言葉」や「音楽」や「絵画」

宗教・・・真理として

実話にまつわる

エピソードとして

しっかりしなよ

そっちじゃないよ

凜としなよ

負けるなよ

けれども

自分も他人も責めすぎるなよ

そういうアドバイスに満ちている

それを

キャッチできる自分で

いたいと思います・・・

「3月9日」

レミオロメン

流れる季節の真ん中で

ふと日の長さを感じます

私とあなたで夢を描く

3月の風に想いをのせて

桜のつぼみは春へとつづきます

溢れ出す光の粒が

少しづつ朝を暖めます

大きなあくびをした後に

少し照れてるあなたの横で

新たな世界の入り口に立ち

気づいたことは 一人じゃないってこと

瞳を閉じれば あなたが

まぶたのうらに いることで

どれほど強くなれたのでしょうか

あなたにとって私もそうでありたい



砂ぼこり運ぶつむじ風

洗濯物に絡まりますが

昼前の空の白い月は

なんだかきれいで 見とれました

上手くはいかぬこともあるけど

天を仰げば それさえ小さくて

青い空は凜と澄んで

羊雲は静かに揺れる

花咲くを待つ喜びを

分かち合えるのであれば それは幸せ

この先も 隣で そっと微笑んで

瞳を閉じれば あなたが

まぶたのうらに いることで

どれほど強くなれたでしょう

あなたにとって私も そうでありたい

## 自分に問う

---

花は

いつものように

咲き、散り

季節は

移る

そんな

当たり前の

奇跡に

心から

感謝できるのだろうか

上っ面の義務的な

感情なんて

すぐに

見破られてしまう・・・

それを

いつも

自分に

問いただしたいです . . .

# 浪費

---

会議をしていると

今のその問題から

ずれていく

論点から遠ざかっていくと

感じる時があります

その根本の原因から

うわべの事象にいてしまい

議論をしている人の

プライド

立場

意地などか

交差して

時間だけが浪費されていく . . .

無駄といえは

その時間ほど

無駄なものは

ないと

感じます

やはり、

リーダーが

必要ですね . . . .

よく

モチベーションを

上げるには

どうしたらいいか

と聞かれます

理想を高く持て

そう答えるのが

王道だと思いますが

身近なドラマを見たり

映画の主人公に

触発されたり

小説を読んだりして

答えを見つける

または、探す・・・

自分が

何かに悩むことは

意味があり

考え続けることで

ある日、視界が開ける

その経験は

かけがいのないもの

悩んだ人だけが

体験できる

アメージンググレイス



# 祈り

---

熱く熱せられた情熱は

その人の

やりたいことを

成し遂げる

原動力

モチベーションの低下に

悩んでいるものは

その熱に

焼かれて

無くなってしまふ

世の中が

二分化している

ような気がします

環境の違いや

スタートの違いが

大きすぎて

やる気のでない

人もたくさんいると

思います

でも

神様は

いるのです

祈れば

ひとつになります

そして

こう言います

「ゆっくりでいいから

私のようにになりなさい」

一億年をも一日と

感じている方は

私たちを

ずーっと待っています・・・

## 他者への関心

---

不機嫌は

伝播し

多くの悪い影響を与える

不幸の種を

たくさん蒔くように

毒が

芽吹いてしまう

自分のことだけ

考えすぎる日は

意識して

自分以外のことを

考えてみる

そうすることによって

他者への

関心に

重心が

移っていく時

バランスが

良くなっているかも

しれませんね

愛は

確実に

広がっている

最初は

小さな

小さな

光に似た

苗が

実は

大きな

大きな

大木だったとは

知る由も

なかった

幹は

堂々

太くなり

枝は

のびやかに

葉は

生い茂り

まさしく

繁栄とは

このことだったと

実感しています

主の愛の光を

芸術にかえ

芸術的伝道という

使命を

胸に秘めて

花を

咲かしてゆきたいと

考えます・・・

私たち

日本人は

少し贅沢です

飢えを凌ぐため

働いている人は

あまり

いません

職業に貴賤はないけれど

やはり

好きな仕事に

つきたいと

思うし

やりがいや

生きがいを

求めてしまう

なんて

幸せなんだろうと

感じます

世界では

飢えている人

餓死する子供たちは

あとを

絶ちません

だからこそ

そのために

誰かの為に

自分に

出来る範囲で

自分自身の問題として

考える時も

必要だと感じます・・・



## 息を吐くこと

---

ときおり

襲ってくる

この感情・・・

空虚にも似た

虚しさが

心を

痛めつける

まったく

何も手に付かない日

息を吸うだけでも

できるなら

深く

息を吸おう

そして

残らず

息を

吐き出そう

もう

酸素が

身体の

なかから

無くなるほどに

そうすると

身体の

毒が消え

また

力が

満ちてくる

光は

常に

溢れている

# 役割

---

自分は

世の中の

役に立っているのかと

思うことが

あります

誰かの

幸福の為に

その手助けが

出来ているのかを

そう考えていくと

そのひと

それぞれの

役割にいきつく

きっと

それぞれの

役割は

その為にあり

また、

その為に

許される

ならば

私は、詩を書き

発表していくことで

役に立ちたい

今も

これからも……

すれ違う

人々

都会のなか

だれも

笑っていないのに

気付く

日本という

国の

空気が

重く

のしかかる

閉塞

された

社会は

決して

その重石を

持たないものを

許さない

村の掟は

どこにも

書いていないのに・・・

死を思うことで

---

人は

死を思うことで

生を

見つめなおす

人は

今を

生きることによって

死を

超える

ちゃんと

生きている人は

死と生を

両輪としながら

バランス良く

どちらも

見つめている

そうすることに

よって

自分を

振り返ることが

できる

私も

そうありたいです・・・



## 今世の問題

---

いかに生きるか

それが

問題だ

今世の回答ともいうべき

ものなのだから

迷い

間違い

行い

苦しむ

そのプロセスを

逆から

考えてみれば

自分の心の傾向が

明らかになる

今世の回答を

得たければ

今世の問題を

見抜け

# ダメージ

---

精神的に

ダメージを受けた時

どうしたら

回復するか

疲れて

そんな

考えすら

めんどくさいとき

静かな

沈黙

音をなくし

魂のみ

響かせる

みだれた

不調和な

旋律が

深呼吸と共に

調律されていく

息をしているって

不思議だ

深く

吸い込むだけで

身体の

隅々にまで

温かみが

伝わっていくようだ・・・

ファイト！

---

深夜勤務と

日勤の時差ぼけが

とてもきつく

感じられ

弱音を吐きそうです

どんな勤務体制でも

創作活動が続けるのが

今回の課題の一つでも

あると感じているので

あと

一息

歯を食いしばります

自分自身の

創作活動が

同じような境遇の

詩人に

なんらかの

お役にたてれば

幸いです

ファイト！

# 会話

---

日本社会

微妙なニュアンス

言質をとらせない言い方

第三者が見ていると

何を話しているか

分からない会話

今日、後輩に

「さっきの会話、

何を話しているか

全く分かりませんでした・・・」

と言われて

はっと気がつきました

もうそんな世界に

二十年以上いる

その世界にどっぷりと

浸かっている自分がいると

なんだか

とても哀しいけれども

避けては通れない

現実だし

自分の運命であるのかなと

思われます

何かに

自分のなりたい者に

スーッと成れる人がいます

それとは

別に

その女神に振られ続ける人もいます

私は

二十年以上振られ続けています

振り向いても

もらえません

だから

書き続けて



いるのかなあ . . .

しなやかに

---

疲労が

身体から

精神へと

マイナスな感情を

及ぼす時

心は

鍛えられている

ぐっところえ

ぐっと耐え

なんとか

跳ね返す

その繰り返しの

なか

鍛えられた心は

強く

折れない

しなやかさを

有する

主は、見捨てない

---

今日は、本当につらい

そう思い

心が

弱っている日は

主に祈る

すると

まず

胸が

そして

お腹が

あたたかくなり

心が

軽くなる

重しがとれ

悩んでいた

ことが

解決する

主を信じ

主に祈る

主は

私たちを

決して見捨てない

手を離すのは

いつも

私たちの

ほう

なのだから

## 己との戦い

---

信仰が奇跡を起こす

それは、宇宙を創り

人類を創造された方には

ありて

ある

力

病気や

人生を

好転させたり

悩みを

解決することなど

その力と

親和すれば

必然となる

この

目に見える世界で

いかに

主を信じられるか

人生の大きな命題が

隠されている

あなたは、主を信じますか

この世に終わりを告げる最後の日まで

信じきれますか

私は、主を信じています

それは、自然感情ではなく

信じるという行為だとわかるまで

自分を疑い続ける己との

戦い . . . .

詩的生活を

長く続けていくには

健康が

第一です

とくに

今、気をつけないければ

いけないことは

食べ過ぎです

食べるのが

大好きな私は

一杯たべてしまうので

一日

なるべく一食にして

います

それと

ウォーキングは



欠かさずに

おこなって

足腰を

衰えさせないように

努力しています

人生も

半分きました

後半戦に向けて

がんばるぞー

不自由を

---

欲しいものが

たくさんある

この年になっても

読みたい本が

たくさんある

いくつになっても

時間が欲しい

空間がほしい

自由がほしい

この地上での

不自由を

とても感じます

これこそが

大事な感覚なのだと

魂に

刻んでおきましょう



1987年12月

赤坂見附の

坂を上った

ところの

小さな会場にて

発展の原理の

御講演を拝聴して以来

25年

主の言霊を

魂に刻んで

まいりました

さいたまスーパーアリーナ

にて

主の変わらない

御言葉と不惜身命の

御姿は、

25年前以上でした

いろいろな

人と

出会い

また

離れていきましたが

25年間

主を信じてきたことを

本当に

心から

誇りに思います

我が魂にとって

最高の一日でした

## 老眼鏡

---

とうとう

老眼に

なってしまった

近くの文字が

見えにくい

少しがんばってみたけれども

あきらめて

老眼鏡を

買いました

欲しいと

思ったフレームが

全然似合っていないのに

ビックリしました・・・

## 切ない気持

---

H Sの会員の部下が

無断欠勤を

三日もしている

ずーっとドライブモードで

電話がつながらず

住んでいるアパートに行ってみたら

ちょうど大家さんに遭遇

その大家さんもH Sの会員さんで

御母さんに連絡を取ってもらい

ようやく本人と面会

理由は、言ってもらえなかったが

連絡がつかないことを

どれだけ職場の仲間たちが

心配したか

理解していないようだった

自分から

退職したいということだったが

とても切ない気持ちに

なりました

できれば

未入会の方たちの

模範に

なってもらいたかった・・・



## 気持ちの高さ

---

あっけなく

その人との

縁が切れてしまい

こんなものかと

少しむなしくなる

こちらの

重みとは

別に

向こうの軽みに

その糸は

儂く途切れた

予想もしなかった

終止符に

また

少し人間についての

許容範囲が広がった

皆

疲れている

働くということが

重く押し掛かっている

ただ

働くということが

つらいのかもしれない

自分の好きなことのため

やりたいことのため

夢を実現することのため

そんな気持ちで

前に進むのなら

その

ハードルは

越えられない高さではない

自分のモチベーションを

上げれば

障害物は

低く見えると

わたしは考えます

## 指導力

---

もし

部下が

言う事を聞かないと

思われるなら

次のことを

試してください

- ・ 人より早く出社する
- ・ 人より多く仕事をする
- ・ 人より汗をかく

この三つで

言う事を聞いてくれるように

なります

不思議です

人事異動で

新しい部署に行っても

だいたい半年くらい実践すると

指導に従ってくれます

初歩的な指導力の源であると

考えます

最近

めっきりC型肝炎に関する

報道がない

決して終息した訳では

ないのに

本当に

報道なんて

いいかげんだ

C型肝炎の患者の

恐怖と不安を

抹殺したようなものだ

家族に

患者がいるが

この国の

冷たさといったら

酷いというよりも

あきれ

それで

税金を

上げるなんて

ゆるせない

病人の孤独と

不安は

制度の歪みが

重くのしかかる

民主党の

誰かが

勝手に

手打ちをしたから

あとの

何百万人のC型肝炎患者が

見捨てられてしまったことを

ここに

記します





# モンスター

---

教育とは

困っている人を

助けてあげる

自然に手を取ってあげる

何かをしてあげたいという

自然な気持ちを

育み育てること

そこに

教育の使命があり

その土台は

宗教である

それを

拒否している

学校や先生は

子供たちに

復讐されている

それは

かつて

自分たちが

教え育てた

宗教無きモンスターが

叫ぶ

「先生が、僕たちを創った」と

「うそを教えられた僕たちは

どう生きればいいのか」と

## 新年に、死を思ったこと

---

1月6日の未明に

脈拍が200以上になり

市販の計測計では、エラーが出てしまうほどの

発作に見舞われました

まさに、死をイメージしました

すると・・・

先に、死んだ知人たちの顔やら

なんやらが思い浮かび

ほんとに、まずいとおもい始め

G大の緊急外来に、タクシーで向かい

生体情報モニタは、赤ランプが点きっぱなしで

お医者さんたちは

大慌て

いろいろやりましたが

心拍数は、落ち着かず

「少しの間、心臓をとめますから」

「万が一のときに備えていますから

安心して下さい」

とのことでしたが

心臓を一回とめる???

それは

ちょっと死ぬ事じゃん????

とビビっていたら

「いきます」と

点滴のところから

薬を投入!!!

息苦しくなり

数秒逝きました・・・

が

すぐに落ち着き

事なきを得ました・・・

病名は

他にありますが

とにかく

働き過ぎだと

怒られました・・・

でも

死を思った時

自分のやるべきことが

再認識され

一年の初めに

大反省をさせられました・・・

でも・・・心の中では

かなりビビっていて

エル・カンターレ ヒーリングを

何度も繰り返し

唱えておりました

今日また

外来で

診察を受けてきましたが

特に、異常なしでした

けれども

浮かれてはいられません

更なる

精進と

それに

没頭する

障害にたいしての言い訳的な

甘えに

喝を入れたいです

猛省した

はじまり

でした・・・

## 主の子

---

失意、挫折のなか

さらなる精進が

できるか

それを

問われる時がある

生きていて

うまくいかない事象が

あらわれて

信仰が

試される時がある

いつも

自分の弱いところが

露呈し

そこをついてくる

その出来事は

自分の弱点を教えてくれる

教師でもある

さらなる

精進と

主を信じること

そして

その子である

自分を信じること

コツコツと

努力する者に

開けない扉はない

立ちほだかる

壁もない

私は

主の子だから



## 宿題

---

不条理な

なぜ？

と思われることのなかに

人生修業の真髓が

隠されている

その

運命が

捉えて離さない

のなら

その運命を受け入れて

前に進む

宿命のように

変えようと

もがくけれども

影のように

ついてくるのなら

それと

共に歩いていく

その

シナリオは

主からの

宿題なら

よろこんで

前に進もう

## お金の問題

---

経済の問題は

一生の課題である

避けては通れない道である

お金の問題は

その人をあらわす

ライフスタイルに

大きく影響を及ぼす

いくら稼いでも

無駄に使えば

足りないだろうし

使わなければ

貯まるだろうし

時間と同じで

管理の問題と

捉えなおすことによって

見えてくるものが

あるのかもしれませんがね

でも

不思議なことに

いつも

ギリギリで

なんとかなるのは

どうしてなのでしょう？

おそらく

お金持ちの人も

そうでない人も

足りることを知らなければ

際限なく

欲しいという気持ちに

振り回されてしまう

ということは

お金持ちも

そうでない人も

足りることを

知らなければ

両方とも

同じ気持ちであって

同一の心の傾向で

あるといえる

それは

量の多寡ではなく

心の持ちよう

お金持ちでない人も

欲しいものは無く

つつましい暮らしで

満足して

いつも

お金が余っているなら

お金持ちかもしれません

また、

お金のある人でも

あれもこれもと

どんどん購入していたら

いくら

お金があっても

足りなくなり

心は貧乏なのかもしれません

どちらも

心の持ちようなら

せめて

心は

錦といきましょう

## 遠近両用メガネ

---

最近

老眼になりました

本の字が

霞むようになってきて

とうとうきたか

という感じで

今は、遠近両用のメガネを

かけています

おかげで

本を読むときに

目を細めたり

離してみたり

しなくても

スラスラと読めます

一日一冊くらいなら

楽勝です

ということ



あきらめて

メガネを

かけるように

しました・・・

## 自分の考え

---

自分自身の

人生のズレを

考えてみる

これは、何度も何度も繰り返し

省みて

何層にもなった汚れを

取り除くように

何度もおこなう必要がある

魂の傾向性が

出てきたのは

いつくらいか

好き嫌いが

ハッキリしてきた時は

内的幸福と

外的幸福

コマーシャリズムの影響は

いろいろ

考えてみると

今の自分が

何で

できているかが

垣間見れる

自分の考えていることが

自分ならば

その

考えに影響を

与えたものを

探るのも

ひとつの

反省かもしれませんね

## 信仰行為

---

主への信仰を

明らかにする時がきました

私は、

主エル・カンターレを信じています

主を信じ

主を愛し

主と一体となる

信じるとは

主が神々の主であり

人類を導いてきた

至高神であることを

信じること

愛するとは

信じていることを

広めること

一体となるとは

広めているなかで

苦難困難が立ち現われても

主の袈裟衣を離さないこと

頑なな絆によって

師と弟子の結びつきによって

乗り越えていくこと

死んで

あの世に持って帰れるものは

信仰心以外はないということを

魂に刻むこと

現代の日本に

いちばん欠けているものは

信仰心であり

自分が主を信じている

姿、言葉をとうして

伝道すること

主を信じ

主の降臨を伝え

広げることこそ

信仰行為である

昨日、

自分をスキルアップ

バージョンアップするために

いってまいりました

東京正心館は、19日限定ということで

平日の夕方というのに

大変な熱意と

知的エネルギーに

あふれていました

昨年、「美について」に

引き続き

知と愛と発展の

さわやかな風に

仕事の疲れも吹っ飛ばすような

芸術的波動に

私の精度も

若干、研ぎ澄まされた？

磨いでいただいた？ような気がいたします

里村広報局長さまの

最新情報を交えての

解説は、熱く、わかりやすく

また、言えない事も

たくさんいっていただき

知的欲求も大満足な一夜でした

知的生活は

自分もあこがれであり

本にかこまれて

暮らすのは

なんともいえない

喜びです

朝、早く起きて

本をめくり

線をひく

メモをとり

インスピレーションをうけて



詩を書く

これだけで

私は

ものすごく

幸福です

そして

その詩が

多くの人々の

心の潤いになれば

いうことありません

とにかく

最高の御法話研修会でした

追伸

総裁先生の至福の本好きが

とにかく伝わってきて

なにか、おいしいデザートを

食べているような御法話は

なかなか拝聴できないかも・・・です

終了後に

館長の握手で

ものすごいパワー注入つきでした

元気になりすぎてどうしよう・・・

## お金のこと

---

お金のことを

考えないわけには

いかない

現代の経済原理のなか

単純肉体労働にたいする

単価の低さは

異常ともおもえます

過去

あれだけの

高収入を得られた

職業が

没落していく

大手ゼネコンも

本社の肥大化に

単価が耐えられなくなっている

おそらく

無駄な、上層部を養うために

その機能を補てんする為に

単価の上に乗せられているとしたら

倒産は

ある意味

その業種の健全化に

繋がるのかもしれませんが

そんな遠くない日に

実感することも

あるかも知れません

哀しいけれども

## お金の方法

---

いまいち

お金のことが

わからず

経済のことが

理解できていないと

感じるものが

多いのですが

アダム・スミス先生や

ハイエク先生

アラン・グリーンズパンと

その方たちの書物を

読んでも

わからないことだらけと

感じます

金融のルールと市場そのもの

参加のルール

今後の展開

労働単価の下落

また、パソコンやテレビ等の

限りなくゼロに近い価格への移行と衰退

アメリカ、ヨーロッパの

お金でお金を増やす金融工学の

失敗

根拠なき熱狂？

では、どうすればよいのか

本多静六先生のように

基本に立ち返るべきなのか・・・

など、

こころの冷え込みが

ここまで経済を疲弊させるのか

と

思いを

巡らせています

いつか

雲が

晴れるのかなあー

# 死んで持って還れるもの

---

金融とは

何なのか

お金が

お金を生むとは

どういうことなのか

いろいろな

金融商品

ファンドとは

なんなのか

お金は

おいといても増えない

運用すると増える

使うと減る

使わないと

減らない

ただ、



本当の財産は

良い経験と学びならば

適切に使用して

心の財産を増やすことが

最終的に

豊かになれるのでは

死んで持って還れるものは

心だけと

言うではありませんか

静けさ

---

深夜に働くと

ほんとの

静けさを

実感できる

夜中の

2時～4時は

本当に、静かだ

自分の

思いだけが

街のなかに

響いているようだ

## チーム

---

自分で

何かをやろうとすると

その自分の限界が

担当組織、チームの限界となる

少しずつ任せていき

仕事を分担することは

長く働くこと、長く成長させることになり

組織としての成功に

高い確率でなっていく

2 : 8をイメージしながら

多角的に分担を決めていく

人がそれぞれ成長していくことと

その組織が成長していくことが

同じであるような

組織をつくりたいと考えます

コツコツと

---

身体の

疲れが

長く残る

今日このごろ

若いころの

回復力は

天の恵み

とにかく

長く活動するには

ペースが

大事

無理せず

休まず

コツコツと

苦手

---

やはり

大勢の人と

会うのが

苦手です

からだが

きしきし

いたむような

感じがしてなりません

最近

電車に乗るのも

つらいです

だから

iPhoneで

総裁先生の御法話でブロックするか

天使のモーニングコールを聴いて

身を守っています

弱いと思いますが

あの

波動は

やはり

きついです・・・

## 「シェークスピアの恋愛論－青春の崩壊あるいは希望－」について

---

拝聴して参りました

シェークスピア先生が

登場するとあっては

行かずにはおれませんでした

「青春の崩壊あるいは希望」

なんと

美しい題でしょうか

それだけで

想像力が増した感じですが

内容は、

とても大らかな

そして、神の視座にて

俯瞰されているような

優雅さの波動が

あたりを支配しているような

気品あふれる靈言で

ありました

時があっというまに

過ぎ

深夜作業明けの

私の疲労した頭脳にも

高貴な光を

戴いたような

贅沢なひと時でした

恋愛からは

私自身は、もう遠ざかっておりますが

あのころを

振り返れば

人生を崩壊させるほどの

進りと熱情が

経験として希望なりうる

体験をさせていただいた

貴重なる

朝露だったのかもしれませんが

誕生日に相応しい



贅沢な一日でありました

今際の際

---

死に対する

恐怖は

万人が持つもの

その

恐怖の

なかみが

執着であったと

しるのは

今際の際

自分の

執着を

見たものは

自分を

見たと

いえるのかもしれない



## 特典

---

最近

正心法語を

かけっぱなしで

寝ています

短時間の

睡眠でも

何時間も

休んだ

回復力に

驚かせられます

不浄なるものが

取れ

光のみ

注入される感じです

信者ならではの

特典ですね

明日は

春の嵐？

になりそうな

雨風が強い

一日に

なりそうな

そんな

天気予報が

でております

今後の

日本を占うような

荒れ模様な

天候に

私たちの

備えは

十分では

ありません

もっと言えば

意図的に

備えを

遅らせれている

方々が

世の中を

跋扈している

幸福実現党

最後の

望みの綱

暗雲の隙間からの

一条の光り

この

不毛の日本に

信仰優位の

言霊よ

咲け





昨日

降雨のため

作業は中止となり

急遽、拝聴してまいりました

正直に言って

モニターを

直視できませんでした

ああ

これが

神の御前に立つという

ことなのか

ということを

改めて

思い知らされました

また

あまりの

靈威の

凄まじさに

驚きを禁じ得ませんでした

張り詰めた

空気は

その場には

居られない

程の

緊張の糸が

自らの

小ささを

意識せずには

おれないほどでした

昔

ツイッターで

日本民族は

このままいくと

呪われるかも

と

つぶやいたら

だいぶご批判戴きましたが

主を苦しめ

馬鹿にし

そして

選挙で落選させた

反作用は

もちろん

日本民族に

かえってくる

天に唾すれば

己に

かえってくるように・・・

とりあえず

覚悟と

完全燃焼を

胸に、魂に

刻み込まれた

激しい

御法話でした・・・

日本人！

---

人類への

警告は

もう

されている

特に

日本人への

最終警告は

幸福実現党立党時に

叫ばれている

それを

どう

捉え

どう

改善してくかは

日本人に

委ねられている

これだけの

光りの

弾が

打ち込まれているのに

目を覚ませ

日本人！

## 心の構造

---

自分の

心の構造を

考えることは

とても

おもしろい

その柱は？

その屋根は

玄関は？

自分が自分であるために

守ろうとしているものを

探ってみれば

心の構造の一端が

明らかになる

ここに

反応している自分

その関心領域に

優位性を保とうとする偽我

悩みの

発生が

そこにあると

おもわれます



心の

支えを

失くすと

人間は

とても

苦しむ

不安定になる

精神という

家は

バランスを

なくす

やがて

崩れてしまう

信仰は

柱だ

土台だ

精神の

支え

なんだ

## 今川裕代さんのピアノ・リサイタルについて

---

2月10日

東京文化会館での

今川裕代さんのピアノ・リサイタル

にいてまいりました

直後に

感想を書こうと思いましたが

あまりにも

鮮烈すぎて

熱のさめるのを待ちました

東京文化会館は

久しぶりで

二十数年前

ソ連がロシアになる直前に

レーニーグラーフ歌劇団の

オペラを聴きに来て以来でした

あのころは

時代の変革が

ものすごいスピードで

起きており

その歌劇団も最後の公演かもしれないということで

記念の公演だったと思います

それから

二十数年

座席に座ると

ここちよく

もう

今川さんがあらわれた

だけで

ある種の音色が

奏でられている

不思議な感覚に

おちいりました

更に

今川さんの手が

天女の羽衣のように

ピアノを撫でていくと

音があとから聞こえてくる

ようにも聞こえ

意識が

違う世界に誘われている

感覚は

水の音が清らかに流れ

それは

川なのか海なのか

そして

星なのか

光りの散乱なのか

この世から

遊離した

光景には

ひとつの

懐かしさが

ありました

ずーっと考えていましたが

そう

バリシニコフのバレエを

間近でみた

残像と重なるようでした

この世に

還るのが

大変な程の音色は

パブロ・カザルス

の演奏を聴いた後

王女様が

今は、この世ですか

それとも天国ですか

と聞かれた感想の意味が

やっとわかったような

気が致します

歌のない音楽を聴いて

あれだけの映像を

拝見できるとは

稀有なる瞬間に

立ち会わせて戴いた

感謝でいっぱいです

ぜひ

皆さまも

次の機会は

お聴き逃しなく

です！

御法話「『原点回帰』-31年目の日蓮の霊言」、御法話「司馬遼太郎なら、この国の未来をどう見るか」

---

昨日は

早くから

雨が

降り始めたので

作業は、中止

そして、休みとなりましたので

いってまいりました

東京正心館へ

6：30には

出勤していましたので

関係各所に雨のため

中止、休みを伝え

9：30ごろ

到着し

ダブルヘッダーで



拝見いたしました

計4時間ぐらいでしたので

さすがに

キャパシティの小さい頭には

クラクラ致しましたが

懐かしい顔ぶれが

画面に現れると

1980年代にタイムスリップした

ようでした

須呂理事の解説のなかでの

「発展の原理」のくだりは

私もその場にいましたと

ひとり涙ぐみました

西荻時代の懐かしいお話は

あの当時を知る

骨董信者には、

時間が経った郷愁に

おもわず

青年部時代を

回想せずには

おれませんでした

確か、事務所のそば？に

書籍やテープなどを販売している

小さなスペースがあり

お金もないのに

20万ぐらい買い占めたら

9次元にでも

いくの？と

職員の方に聞かれ

もちろんですと

言ったら

小冊子を沢山

おまけで戴き

かなり励まされました

青年部の集いでは

南原様と同じ班に

なったり

出演されていた

山口様の

異動の挨拶を

胸熱く拝聴したり

おもいでは

でてくるは

でてくるは

で

サンライズ90前の

アットホームな

幸福の科学時代の

心の広場の雰囲気

ああ

心のどこかで

しっかりと

刻まれているのだと

あらためて

おもいました

20代で

初めて

宗教にふれて

宗教がまったく

理解できていない

私にとっては

はじめてのことばかり

でしたが

今となっては

こういう風に

信仰団体の存在理由が

カチッとしてくると

なるほどと

附に落ちますが

当時は

固まるまえの

柔らかい状態だったので

若い、未熟な自分には

理解を超えたところが

多く、その未熟さゆえに

悩み、

また

強くなった

気が致します

信者になって

26年目・・・・

ハードルが低い

私は、入会したとき

死ぬまで信者でいよう

死ぬまで、この方に

ついていこうと

この二つだけ

誓ったのを

ふと、

思い出させて

戴きました

司馬さんの靈言は

総裁先生が

司馬さんにしか見えず

靈言の真骨頂とも

いうべきものを

拝見させて戴き

大変、中身の濃い

御話でありました

正心館の扉を

開けて

外に出た時に

誰かに

4時間もみて

どこ行くんだい？

と

声をかけられたような

雨のバレンタインデーで

ありました・・・

心して

---

総裁先生の御法話とか

御著書を読んで

幸せな気分でいるとき

不意に

ものすごい刃で

切りつけられるような

言葉を

浴びせられることがある

それは

いつも

気をつけなければと

注意しているのだけれども

忘れてしまう

自分がいけないのかも

しれません

まだ、



この世に

いることを

心に

しっかり

持ってないと

すぐ

やられてしまう

ということを

心して

いこうと

おもいます

ときどき

普通の人に

ビックリします・・・

## 明け方の春

---

夜明け前

仕事場に

たたずみ

鍵を

選んで

扉にさそうと

したときに

夜明けが

はやく

照明を

付けずに

鍵を選ぶことが

できたと

ふと

おもい返したら

着実に

日の出は

はやくなり

花粉が

飛んでいる

小さな

幸せは

明け方の

春が

気づかせて

くれた

## 学校で教えてくれないこと

---

学校では

お金の使い方

お酒の飲み方

異性、結婚の方法と継続について

教えてはくれません

社会に出て

自分で学び、若しくは

先輩や上司に指南して戴くか

友達や同僚に相談したり

教え合いながら

成長していくようですが

その時では

遅いケースが

最近、増えていると

思われます

もう既に

借金まみれとか

経済力もないのに

子供が生まれて

途方に暮れている者とか

子供が小さいにも

関わらず

離婚して、傷つけ合っている

男女が

多いように見受けられます

その子たちを

見るにつけ

十分な教育を受けてない

ように思われてなりません

孤立して

社会のシステムも分からないまま

追い込まれている

もっと

初期に

しっかりとした

心構えを

教えるべきでは

と

考えます

主の教えは

体系的に

整理されている

四正道

八正道

時間論

空間論

因縁果報

.....

数々あれど

百科事典のような

人類の慈悲に

叡智に

全員が学ぶ姿勢を

弟子の礼をとるべきであると

私は

考えます

稀有なる機会は

一期一会ではなく

無限一会だと

強く思われます



## 世界最低の信仰心

---

唯物論学者の

影響が

日本全土を

おそっている

信仰をすて

神にツバキを

吐きかけるこういは

必ず

結果がともなう

日本人の集合的

おもいは

もう

底を打とうとしている

世界最低の信仰心の

烙印を

刻印される日は

ちかいのか



## 頭が悪いこと

---

私は

頭が悪くて

悩んでいました

小学生のころは

早生まれだったせいか

授業にまったく

ついていけませんでした

中学は

一、二とマラソンの掛け声でした

高校は

成績表すら見たことない

状態で卒業しました

ところが

幸福の科学で

主の教えに出会い

経典を拝読しているうちに

何のとなく

他の本も読めるようになり

ヘーゲルやゲーテ

プラントン等の著書を

理解するまでに

なりました

主の教えが

私の脳なかで

変化し

読み進めているうちに

理解力が増したと

思われます

主のパワーが

成さしめた業で

あると信じます

あの当時の

学校の先生やは

きっと

信じられないだろうなあー

## 御法話「ジャンヌ・ダルクの霊言」について

---

雪の中

いってまいりました

薄っすらと

道に舞い降りた

白きベールは

まるで

ジャンヌ様の

御心のようにした

清らかさはもとよりのこと

全ての徳が備わりながらも

それを

忘れさせるほどの

謙虚さと純粹さの

波動に満ち溢れ

私の

汚れた心も

いつしか

白く洗われたような

ひとときで

ありました

学びは

本を深く読みたいと

思う気持ちと

いろいろな分野を

広く知りたい気持ちの

葛藤である

どうしても

好奇心は

うずきますよね

キャパの小さい頭には

こう言い聞かせています

精読は、

仏法真理を中心に

多読は

自分の好きな分野

詩と芸術を中心に



と考えております

それにしても

仏法真理

主の説かれる法は

かめば

かむほど

味が出ます

読めば読むほど

あらたな

内容の発見が

あります

とにかく

24時間

真理学習

学びは

時と場所を選ばず

ですよ

## 愛について

---

肉体を通してしか

自分を表現できない

その限界に挑んでいくのが

この世に生まれてきた

意味かもしれない・・・

私たちは

いつも、この肉体につまづく

密接に本能と結びつき

それを気づかぬように

無意識のなかへしまい込んで

しまうから・・・

文化の香りで

カモフラージュして

動物的な衝動を

覆い隠している・・・

しかし、

生存欲求でしかない

心の衝動は

その醜さゆえに

錯覚を起こさせる・・・

直視できない現実を

幻想で包んでしまう

愛という錯覚は

本来の愛とは違い

欲望を満たした瞬間に

消える幻だから・・・

本当の愛に

衝動はない

相手を傷つけることもない

相手を破壊することもない

本当の愛は

そのなかに

必ず、知と美があり

衝動性は、微塵もなく

長く長く、とても長い時間を

貫いている

愛するという意志なのだから・・・

## 心の隙間

---

肉体から

発生するところの欲望は

日々にわきあがる

心はいつも

それに振り回され

いつしか心は

肉体に従っていく・・・

普通に生きるなら

それもいい・・・

ひとつの生を全うするなら

それもいい・・・

なぜ

人間は

それ以上を

それを越えようともがくのか・・・

動物という枠のなかから

それを越えようという精神は

崇高なるものとして

心の奥からわきあがる

その美しさゆえに

その清らかさゆえに

動物的なる自分と

際限のない葛藤を

繰り返していく

日々が戦いである

聖なるものと俗なるものが

心のなかで激しくぶつかる

一瞬たりとも

気を抜いてはいけない

俗なるものの激流は

心が隙間をあけた瞬間に

一挙になだれ込んでくる

穏やかなる境地を目指して

日々の精進が自分を守ってくれる

生かされていることに感謝して

努力する精神を報恩として

心の隙間をうめていく・・・

## 会議

---

私は

日本的な

会議が

苦手です

からだの

節々が

痛くなります

しかし

人間社会は

何かを

決めなければ

いきません

それで

私なりには

決定は

トップダウンで



修正は

現場で

フィードバックは

その場で

最速に勝る

決定なし！

いかがでしょうか？

御法話も

拝見致しましたが、

今しがた

御著書も拝読致しました

あとかきの

主の愛に

圧倒されました

全人類が

崇める方が

膝を落として

手を差し伸べて

はぐれた子羊を

見放さない

再三のチャンスを

身を費やされて

お示しになっている

お姿は

慈悲とは

また、その

使命の厳しさとは

考えさせるものでありました

主の深き愛を

利用して

暗躍する者たちは

主の智慧によって

光りによって

追い散らされる

闇になり果てたことを

気づかずに

駄々をこねている

頭がいいと

嘯いても

だれも

幸福にしていけない事実を

客観的に

考えさせる材料でもありました

## 自己責任のなかで

---

時々、世の中の喧騒から遠ざかり

自分の廻りに起きている出来事を

客観的に眺めてみると

人間の思考が、ある方向に

寄せては、引いていく波のように

絶え間なく揺らいでいるのがわかる

その渦中にある私たちには

何のことだかわからずにいることも

その方向に何があるのか

何処にいこうとしているのかが

垣間見えることもある

私たちは、不思議なことに気がつく

それは、真理が

わざと見つけにくいところにある

宝物のように、その姿を隠している

しかし、その実は

私たちの心がそれに気がつけるような

心の準備や経験を待っているようにもみえる

つまり、私たちが

愛や優しさや智慧から

離れれば離れるほど

自分からも真理からも離れていく

結局は

真理を発見することは

自分を発見するプロセスなのかもしれない

自分自身のなかに埋もれている宝物

それを発見するための仏の配剤

押しつけられることなく

発見するのは、自分しかいない・・・

自己責任のなかで・・・

## あれから一年

---

あれから

一年

多くの方々が

多くの事を

語られている

そして

被災者の方々に

追悼の意を

表している

私は

主が

この日本に肉体を持ち

法を説き

救いの手を

差し伸べられて

久しいことを

忘れては

いけないと考えます。

それを

報道しないマスコミ

新聞

中傷の記事しか載せない

週刊誌等の記事

それと

大きな会社の社長さんや

著名の方の意見等

でも

至高神の考えに

あわすことが

この時代の使命であり

約束である事を

忘れてはいけないと感じます



お亡くなりになられた方々に

主の御光が臨みますように

御冥福をお祈り申し上げます。

# HAPPY SCIENCE GINZA BOOK CAFE がプレ・オープン

---

HAPPY SCIENCE GINZA BOOK CAFE に

行ってまいりました

銀座で

ポエトリーという映画を見た後

有楽町線に乗ろうと

メトロの出入り口の前に

いったところ

出くわしました

偶然に

木目調のやさしい

ロッジ風のカフェで

おいしいコーヒーを

頂いてまいりました

おもわず

エマソンの自己信頼という本に

出会い

更に大満足でありました

今日もいこうかな・・・

## 不況と解雇

---

厳しいニュースが

飛び交っていますが

自分が

よく生き残れているな一と

不思議に思います

何の取り柄もなく

社会の片隅で

しがみついている感じですが

経済活動が

いまいち

よくわかりません

富の創出といわれますが

かなり

他人任せの観が否めません

おそらく

主が御生誕するのだから

えいやーっと

この世に来たような

気が致します

はやく

幸福実現党が

政権を取らないかなー

貧乏が

蔓延し

若い人は

仕事に

つけず

団塊サヨクの

高笑いが

聞こえる

大貧乏神が

取り憑いた日本は

不幸を

撒き散らし

今、まさに

沈みかかっている

日本解体の役者は

揃った

次から次へと

あらわれる

貧乏神たちに

身動きがとれない

日本

反日国家に囲まれて

飲み込まれそうな

日本

そのなかに

救世の光りが

輝きをまし

すべてが

あきらかに

日の光りにさらされたとき

私たちは

真実を知る

## 生命の音

---

山積みの

やらなければ

いけないことに

追われる日常に

少しの静寂を

想像する

シーンと静まり返った

心の湖は

鏡とは

程遠く波立っている

こんなに

騒がしくって

生命の音も

聞こえないなんて



職場での恋愛は

結婚に結びつく場合には

歓迎されるが

そうでない場合は

二人とも辞めてしまう

ケースがよくある

人間だから私情が

入るのは、致し方ないとはしても

戦力ダウンは、否めない

とは言っても

男女が一緒に働けば

好き嫌いが発生するのは

当然のこと

距離の取り方を

見誤るとバランスを失うのは

すべてに

通じそうですね・・・



愛が届きますように

---

詩を書き

発表してゆくことが

私にとっての

与える愛であり

そのために

日々、自らを律することによって

日々、心を清らかにしてゆく

この愛が

透明になりますように

私利私欲が含みませんように

読んで下さる方を

癒やし導くことができますように

より多くの人に

愛が届きますように・・・

## 17年前のあの日

---

けたたましく鳴る電話の音で

目が覚めました

実家の父からでした

「お前、お母さんから連絡があって

霞ヶ関が大変なことになっているぞ

テレビつけてみろ」

私「・・・??？」

父「ところで、お前、なんで電話に出ているんだ？」

私「今日、急に休みになったんだ」

そんなチグハグな会話をしたのを

懐かしく思い出しました

本当ならあの日

東京メトロの千代田線霞ヶ関駅8時着の

あの車両に、私は、乗っているはずでした

しかし、急な予定変更で、

休みとなっていたのです

不思議ですが

あの渦中の中に

本当は、いたはずなのに・・・

主に感謝せずには、

おれない日となりました

お亡くなりの方々

まだ、

後遺症に苦しんでいる方々が

主の御光で

癒されますことを

お祈り申し上げます

あるまちでは

---

街は

賑わっている

不景気ということば

よりも

あるところにいると

まったく感じないものが

違うところでは

明らかになる

日本に

元気がででこないのは

疫病神に

取り憑かれて

苦しんでいる

だけなのかも

しれない

銀座は

ひとで

あふれている

北朝鮮のミサイルが

日本上空を

飛ぶ

何もしない政府を見て

明治の志士たちは

何とおもうのだろうか

日本の国土を

侵されて

何も感じないなら

そのひとは、

日本人ではありません

日本の国土は

日本の肉体であり

血です

侵すべからずです





## 不景気の正体

---

不景気の正体は、

貧乏神に

取り憑かれた

人たちの

不幸を愛するところ

不幸を食べる

もの達の

餓鬼のころ

貪る気持ち

搾り取り

ころを

枯らして

よろこんでいる

悪い奴らは、

民主党と財務省のなかに・・・



## 天命を知る

---

人生を

半分生きてきて

いや

天命を知る時期にきて

この限界を

嘆く

もっと

大きな仕事がしたいと

おもう気持ちを持ちながら

コツコツと

石を積み上げている

道なき道を

進みながら

その先の

山の頂を

見据えている

そうだ

あの

山に

登るのだ

悟りの

頂を

目指して

進んでいるのか

---

仕事の悩みも

尽きないけれど

人生の悩みも

尽きることがない

人間が生きる以上

他者と

関わる以上

愛ではなく

悩みが

生じてしまうのは

自分の未熟さに

他ならない

本当に

前に

進んでいるのだろうか

と思う時が

しばしば

あります

## 現実の悩み

---

賛成の反対という

答えは

部下を

悩ませる

上司の

訳のわからない回答は

私の頭を混乱させし

私を苦悩させる

この三次元に生きて

辛いのは

正しい方向を知りながら

伝えきれない

もどかしさ

いつも

胸を痛めています . . . .





運がよかっただけ

---

自分の人生を

振り返れば

目を覆いたくなる

ことが

多い

心は荒ぶり

強い者には弱く

弱い者には強く

卑怯な行動も

たくさんしたし

衝動は

抑え難かった

経済が全く分からず

その日その日を

生きていた

ただ

運がよかった

だけのように

思われる

主に

出会わなければ

どうなっていたのだろう・・・

## 自分を励ませ

---

法令遵守と利益に挟まれ

苦悩する

責任を回避するものたちは

イエスとは

言わない

厳しいせめぎ合いのなか

立ち回る心は

傷だらけだ

でも

鍛えられている

理不尽な

要求の中

模範解答のないなか

よりよい

答えを

見つける

努力に

人は、

力をつけるもの

負けないし

折れない自分を

更に

励ます

新しい

アイデア

日々の発見

日々の工夫

限られた時間の中で

最大の実りを

収穫するために

時間は

敵にも

味方にも

なりうる

時間に

殺されないだけの

智慧は

自分を最大限に

生かす

道

24時間の平等は

重く

結果として

必ず

あらわれる

力不足

---

人に

話をする時

どれくらい

伝わっているのかが

気にかかる

どこまで

理解できたかが

分かれば

いいなと

考える

顔に浮かんだ

表情のなか

どれだけの真実を

含んでいる

のだろうか



いつも

気にしてしまうのは

自分の

力不足を

常に

感じているから

だからこそ

何度も

同じことを言い

何度も

訴えるしかない

と私は

思います

決して

あきらめることなく

幾度も

幾度も

分かってもらえるまで

幾転生しても

訴えて

いきたいと

考えます

# 苦い思い

---

昔のことで

忘れられない

いくつかの出来事

それは

執着なのか

きっぱりと

忘れたいと

思いながら引きずっている

過去の出来事

ふとした時に

思い浮かぶ

あの場面

相手は、遠の昔に

忘れているのに

なのに

自分は

鮮明に覚えている

悔しいから

忘れたくないから

いつかは

綺麗さっぱり

忘れてしまいたいと

思いつつ

も

時々

ふいに

思い出しては

苦い思いが

胸を

締めつける



詩人の

自己確立期における

最大の克服課題は

どんな環境でも

詩を創作し続けられるか・・・

ということに、かかっている

長く活動することは

難しい・・・

しかし

その不本意な環境は

明らかに、詩人の意思を試す

その激流

その豪雨

その暴風のなか

魂の灯を消すことなく

その創作の灯りを灯し続けられるか

その意思是、強固か

その意思是、確かか

その意思是、不退転か

その意思是、不動か

その実践のなか

磨かれる芸術は、

やがては、

人類の至宝となる・・・と

でっかい夢を信じて・・・

## 待っている間の取り組み

---

風が

変わるのを

待っている

でも

それは

いつになるかは

わからない

ならば

じっくり

自分を鍛えて

高めて、深めて、その時を待つ

焦らず、羨まず、妬まず、腐らず

明るく、素直に、志しを持って

前を向いて



上を向いて

主を仰いで

それが忍耐

ただ

待つのではなく

いかに待つか

を問われている

待っている間の取り組みが

修行そのものだということが

ひとつの

悟りなのかもしれない

## 考えること

---

生きていると

生存させようとする力と

精神的な力とが

均衡し

時には

バランスを失いそうになる

肉を持つことの苦しみは

以前にもまして

苦痛でもあり

精神は隅に

追いやられてしまう

いろいろな楽しみが

随所にみられ

時間を潰すには

事欠かないが

深く考えることを

忘れてしまえば

人間で

なくなってしまう

考えることこそ

人間の条件

なのだから

## 美の形式

---

日本の美の形式は

大和民族が

長い年月をかけて

伝統という

先人達の結晶が

花開いた建築

西洋をも

圧倒する力を持っている

先の大戦で敗れるまで

その美意識は

継続してはいたが

もう

ここまでくれば

滅びゆく

美のかなしみか



新しい明日を生みだす今に

---

創造的破壊の時

不況は

底無しのように

人々は

沈み込む

出口の見えない

暗闇は

一日で言えば

夜であり

朝の来ない夜はない

春には

大掃除をし

いらぬものは

整理されるが

ものが増え

そういう時期かと

軽く思えばいい

今、新しい時代の前の

痛みを味わっている

新しい

明日を

生み出す

今に

さて、どんな産業が花開くか

今は、忍耐の時

潔く散れ

---

民主党不況は

世の中を

暗くしている

数字は

明らかに

無策を

表現する

せめて

潔く

散れ

それが

最後の

国益

だから



## 華やかさの影

---

街の賑わいに

不況も

ある意味

技術的な方法で

脱出できると

確信出来るほど

大勢の人が

春物を

購入し

遊んでいる

華やかさの

影に

悲しみがあることを

踏まえつつ

早く

この日本が

本来の姿に

戻って欲しいと

思います

信仰に満ち

正義が行き届いて

誇りを

持てる

本当の国に

と

中国の横暴を

許しては

なりません

憂う

---

不景気に

負けそうな

我が社を

憂う

中国に

負けそうな

政府を

憂う

民主党が

メチャクチャにした

日本を

憂う

## 行き止まり

---

仕事から

色々な人に会いますが

なかなか

キャパシティを広げてくれます

嘘を平気につく人

人のものを盗む人

我が強く

アドバイスを聞き入れない人

平気で休む人

ミスを認めない人

なかなか

素晴らしい人には

めぐり会えませんが

社会の底にると

見えてくるものがあります

それは

社会構造の

俯瞰図です

水が流れ落ちて

何処へいくかが

よく見えます

余裕と偽善

高みと驕り

上と下

上流と下流の

壁

人間としての

隔たりが

人間の価値を

値踏みしていると

感じます

真理に

触れていなければ

埋没してしまいそうな

位置は

もう下がらない

行止まりのような

感じさえします

## 長い休暇

---

人生も

半分

来てしまうと

大分疲労が

溜まってきている

ちょっとした悪意に

すぐへこむし

精神が

弱くなってきているのを

感じることが多い

ドキドキすることも多いし

緊張することも多い

若い時は

ねじ伏せてやるぐらいの

気持ちがあったが

今は、

柳のようだ

もう少しで

長い休暇が

取れそうだ



## 元気をもらえた日

---

昔の知人の

音の専門家さんの

講演を聴きに行って

参りました

日本を、

世界を

相手にしている方は

本当に

音が好きなんだと

その好きさが

伝わってくる

あったかい講演でした

昔、

私の朗読のテープを

朝まで、その方のスタジオで

一緒に、編集したのを

懐かしく思います

知り合いが

大活躍しているのを

風の便りに聞く時

ヨーシ

がんばらなくっちゃ

と

元気を

もらえた気がします

失っていくことによって

---

卒業のシーズンも

終わり

入学式も

終わり

真新しさから

日常へ戻るのは

あっという間

その

真新しい

透明な季節は

その頃でしか

味わえない純情

月日と共に

失っていくことによって

はじめて

形作られる

淡い

はかなさ

振り返る

ときにだけ

懐かしさを

増す

彩りに

映像は

香り立つ

胸の痛みに

記憶は

あまく

切ないものと

なる



表と裏

正と邪

善と悪

二つの対立は激化し

こんがらがり

どうすればいいのか

見えてこない

政治は

混乱を極め

経済は

失墜していく

大人達は子どもたちに

教えるべきことを教えず

子ども達は

感情を暴走させる

正しさの価値を

見出せない

ああ、

これが

末法か

ならば

再誕されているはず

末法の世に

必ず甦るのは

仏陀

だから

それが

約束だから

目覚めていないのは

私達の方だ



# 聖所

---

春の嵐

風は

うねり

雨は

横なぐり

地は響く

家は

扉を閉ざし

人は口を閉じ

眉間は

苦痛に歪む

人間も同じ

はかりごとに

おわれ

心休まる時はなし

信仰に戻れ

信仰に戻れ

信仰こそ

心休まる

唯一の

聖所

負けてしまいそうな自分に

---

難病に

かかりながら

前向きに

生きている人達を

見ると

勇気が湧いてくる

不幸に見舞われ

再び

立ち直ろうと

している姿を

見ると

何だか

頑張れそうな

気がする

すぐ

負けてしまいそうな

自分に

自分以上に

困難に立ち向かって

笑顔でいる人たちを

思うと

励まされているように

感じる

今を生きて

今日を生きることが

明日となることが

自分にとって

縁起の理法と

なることを

祈って

信じて



どんな本を

読んだらいいか

迷っている方に

大川隆法総裁先生の

御著書をお勧め致します

千冊以上出版されていますので

さて、どれからと

考えてしまうと思われませんが、

私は、

宗教というものに

はじめて触れたのが

幸福の科学でしたから

それ以前の宗教や

宗教家のことは

全くわかりませんでしたので

靈言集は

??? でした

その人なりが

わからないと

読んでいても

ピンとこない箇所が多くて

まとまりが付きませんでした

そんな時に

『太陽の法』を読んで

これだ、と

法体系の全容が

見えたようでした

すると、

他の理論書や

靈人の靈言集なども

理解がより進んだのを

覚えています

それから

総裁先生の御著書を含め

二十五年間に、

数千冊の本を読みましたが、

最初の一冊は、

やはり『太陽の法』です

これが、はじまりでした

この本に出会わなければ

私の人生は、本とは

無縁になっていた

かもしれないと

感慨深い感じがいたします

法体系全体の俯瞰図

『太陽の法』



時間軸の流れ

『黄金の法』

空間の広がり

『永遠の法』

法の中の具体的な教え

『仏陀再誕』

主エル・カンターレの

光体の煌めき

『永遠の仏陀』

そして

宇宙人、奇跡、霊界の真実が

自分たちの地球人としての

立ち位置に

導いてくれる

『不滅の法』

ゴールデンウィーク中の

私の

オススメです

信じることから

---

老いは

ヒタヒタと

近づいてくる

お釈迦様は

生

老

病

死

を説いた

四つの苦しみは

逃れることのできない

人間の苦しみ

やがては

押し寄せてくる

平等なる苦しみ

若さのおごりは

根拠のない自信

いくら若さを誇っても

日々老いている

何かをアキラメ

何を得るのかは

仏陀を

信じるか

信じないかで

大きく別れて行く

信じることから

救いが

はじまるのに

## 恩恵

---

花々は

咲き乱れ

家族連れは

笑顔ほころぶ

この日本に生まれ

この時代に生まれ

その意味を

知らぬままに

生きても

恩恵を受けている

されど

主の御光りは

降り注ぐ

たとえ

振り返ることは

なくとも

その意味を

知らなくても

たとえ

悟ることが

なくても

平等に

降りそそいでいる

## 噛み締めること

---

主が

悟りをひらかれ

暗闇に

灯りが燈った

この地に

もし

主が

いなければ

どうなって

いただろうと

想像する

日本は

海の藻屑と化し

占領され

自治区とされ

日本民族は

消滅していた

かもしれないと

考えると

ゾッとする

この奇跡を

噛み締めることが

奇跡だと

私は

思います



病院は

どこも

混雑していて

大概

待たされる

確かに

はやっている

病院が

病気を

作り

繁盛させているようにも

見える

病院に行くか

入院するかしないと

休めない

日本社会は

少し不思議に

感じる時がある

体を動かす

仕事をしている人は

ゆっくり体を休め

普段

座ってばかりいる人は

運動して

連休は

貧乏神の空気に

閉塞感を

重石のように

フタが閉じそうな

日本社会から

心を

引き離しましょう

本を買いすぎて

---

本を買い過ぎて

お金がない時ほど

何か

必要な

お金がかかる事が

現れて来るような

気がしてくる

マイナスの発想が

心を貧しくしていると

考えて

何も

問題ないと

自分に

言い聞かせると

単なる

見栄だったと

気づくことがあります

ボロは着てても

心は錦

ですよ

今日も

本を

買いに

いこうかな . . . .

上層部の

計画のミスを

現場の人間の責任に

すり替える

技術は

天下一品だ

それで

リストラされ

運命を大きく

変えられた者達の

怨嗟の叫びが

魂を震わせる

みんな

自分が

生き残ることに

必死なんだ

ただ

それだけ

経済の悪化が

ここまで

人の心を

苦しめるとは

主の

繁栄の光が

多くの人々を

救いますように

幸福の科学にいと

時々

不思議な

体験を

する

難病で

苦しんでいる

知人の

お見舞いに

主の御著書を

献本すると

今まで

介護がしてもらえず



補助金も貰えず

友人達の

善意のみで

頑張っていたところが

急に好転して

介護の方は

自宅にきてくれるし

リハビリも

自宅で

できるように

なるし

補助金は

貰えるし

人生が

一気に

好転するのを

目の当たりにすると

あまりの奇跡に

主の臨在を

感じずには

いられない

不思議な体験を

します

本

一冊だけなのに

光りの威力を

感じます

## 選択

---

主の御著書を

読み

学んで

思うことは

この時代の

この日本に

生まれて

下さったことへの

感謝は

計り知れない

ということです

主の言われた通り

行えば

みんなが

幸せになるだけなのに

なぜ

実行できないのかは

その

選択だけ

人の幸せを

考えている人と

不幸を

考えている人との差は

結果に

大きく現れてくる

なのに

まだ、信じられないなんて

主の考えに

従えば

幸福になり

民主党の

思想の通り

政策が実行されていけば

不幸になるばかり

なのに . . . .

## 呪いの絵画

---

金融派生商品という

芸術作品は

多くの不幸をよんだ

呪いの絵画だ

甘く

優しく

心地よい

響きの言葉を

選び

人々の心を

緩ませ

ある日突然

引き上げて行く

がく然とした

人々は

その現実が

理解できぬまま

その対価だけでを

払わせて

また、

払えきれずに

魂を

売り渡せと

迫っている

悪魔のようだ

## 一日の質

---

一日の質を

考えてみる

パソコンや携帯の時間は

どれくらいあるのか

本を読む時間は

どれ位あるのか

24時間は、

インターネットの普及によって

増えたのか

減ったのか

それを考えてみる

そもそも

考える時間は



思索する時間は

減ったのではないか

私達の

情報の質は

落ちていないか

向上しているのか

それを

見直してみる必要がある

時間は

年とともに

はやさが

ましていく

ものだから・・・

# 悪の正体

---

原発を

止めた民主党

節電や値上げを

余儀なくされる

国民

消費税に

命をかけ

日本を暗くすることに

生きがい

を感じる

悪魔の所行

人の不幸を

エサにする

悪魔を

見抜け

それが

民主党の

正体だから

# 努力に努力を重ねること

---

人生修行の課題として

名声を求める心がある

食欲、性欲、睡眠欲、金銭欲、名声・名誉欲

その中でも

最後の病と言われる

名声欲

人から称賛されたい

尊敬を受けたい心

認められたいという

強い欲求

この気持ちは

おそらく

仕事をして

評価を

得られたいという気持ち

と連動している

仕事ができるようになりたい意欲と

連動しているがゆえに

厄介だ

努力に努力を

重ねた者のみが

成功するというのを

戒めとして

胸に刻んでいくしかない

強く

強く

考えます



将来を不安に

思う気持ちは

誰にでもある

その気持ちを

自分の新しい可能性

新しい挑戦に

変化されるかどうか

そこにかかっている

不安に押しつぶされて

しまうよりも

その不安をバネとして

自分を鍛える

バーベルとする

ぜい肉をおとし

筋肉質な体に変化させる

雨が降れば

傘をさす

景気は

天気のように変化する

もう何度も

あがったり

さがったりを

経験している

雲の隙間から

光が差している

回復は

近い

民主党が

政権を

おりれば





学生だったら

---

沢山の人の話しを

人それぞれに聞き

それに対する応答は

画一的になりがちだ

今が

学生だったらと

時々思う

そうしたら

とことん

その悩みに

付き合っあげられるのに

朝まで

話を

きいて

あげられるのに

歳とともに

---

年と共に

病院に

行く回数が増えた

何処となく

調子も悪い日も

増えた

疲れが

数日たまり

抜けなくなっている

その限界を

意識しつつ

無理なく

すべきことを

実行することは

とても強い意思が

必要

日常の課題を

日々こなして

できる時に

できることを

確実に

やりましょう

どこの会社も

不景気で

残業は禁止

でも

仕事は沢山

家のローンや

子供の学費を抱えている

人たちは

自分たちの

食べるものや

着るものを

削っている

それでも

消費税を

上げるといふのだから

アホ

としか言い様がない

民主党政権が続く限り

日本は

ますます

貧乏になる

いち早く

退陣を願います

## 日常生活の大切さ

---

ある講習を受けて

日常生活を

ちゃんと送っている人は

今更

話しを聞く技術を

学ぶ必要性はない

医師もセラピストも

人間として成熟していれば

その人の様子を

見ていれば

その方が何に悩み

何に苦しんでいるのか

共に

考えることができる



聞きました

ちゃんと聞くことができれば

悩みのほとんどは

解決できるものばかりだそうです

日常生活の

重要性を

改めて

認識し直しました

## コストダウン

---

コストダウンは

家計を直撃する

会社は

人件費を

コストと

考える

だからこそ

不況は

どんどん

人間を

いらなくしてしまう

数字の現実

経済活動は

人間を幸福にするものなのに

舵取りを誤れば

全員が不幸になる

民主党政権は

国民を

どん底に

落とし続けている

元凶だ

## 生活の苦しさ

---

生活の苦しさは

家庭を

殺伐とさせる

厳しい現実を

どう受け止めれば

いいのか

判断がつかずに

いる

誰も教えてくれなかった

お金のやり繰りは

気がつけば

身動きが取れなくなってしまう

欲望を

コントロールする術と

バランスをとる術を

自分なりに学ばなければ

消費意欲を高める

コマーシャリズムは

足りない心を

かき乱していく

自分なりに

自分をコントロールする

技術を

獲得しなければ

カードを持った時点で

破滅が待っている

その後は

不幸が

増えてゆくだけに

なってしまう

そんな

哀しい事例を

幾つか

見てきました

人生の早い時期に

収入の範囲内で

生活することを

訓練し

体得する必要が

あるのかもしれませんがね

## 穢れの元凶

---

不景気で

働く意欲が

減退している今

モラルも

低下し

品質が落ちている

日本が誇るべき

細やかさも

雑さが目立てば

信用に関わる

日本を壊そうとする

勢力に

どこまでも



やられているようだ

民主党政権こそ

悪の

穢れの

元凶だから

## 生活保護の問題

---

生活保護の問題は

根が深い

不正に受給している

人たちもいるようですが

激しい競争社会の歪みで

心が

病んでしまって

衛生管理の関係の

鬱問題と

大きくリンクしている部分も

あり

特に

団塊ジュニアたちは

そういう傾向が

見受けられるような

気が

私には感じられる

学生運動の父に

反乱するかのように

寄生しているような

人たちも

なかには

いるようです・・・

親たちが

職を

いつまでも手離さないからか？

甘えているような

反抗期のような

デリケートな問題でもある

心の病を患った方には

会社としての

一定の責任としての義務は

あるであろうけども

世界には

飢えて死んで行く人々や

戦争や内戦で

ろくに教育も受けられない

子供たちもいるし

クロッシングの映画のような

独裁の犠牲になって

死んでいく子供たちさえいる

私たち日本人は

少し

贅沢が過ぎるのかも

しれませんね・・・

## 賭けの代償

---

本当に

この世は

面白い

ほとんどの人が

この世的な考えに

染まっているようだ

会社では

まるで

異邦人のように

私は

取り残されている

まったく見ているものが

違う

心の方向は

やがて

おおきな

結末を

迎える

賭けに賭けた

ものは

賭けた代償を

支払う時が

くるのだから



## 神の子たち

---

真面目に働いている

いい子が

辞めていくとき

本当に

悲しくなる

会社の評価は

この世的な

評価に

傾き過ぎているようだ

他人の見ていないところで

ゴミを捨てにいった

控室を

綺麗にしている子

いつも

重いものを

持って

笑顔で

汗をかいている子

ことばを

出すことが

下手だけれども

辛い作業を

愚痴ひとつ言わずに

頑張っている子

みんな

本当に

神の子だ

## セクハラ講習

---

セクハラ講習を

受けながら

私は

別のことを

考える

キムタクに

触られれば

チカンではないけれど

キモイオヤジに

触られればチカンだという

短いスカートから

出ている足を

チラ見するのはOKだけれども

ガン見はNGだという

この地球上に

たった二種類の

性に

困惑する

女性の深さは

永遠の謎です

## タイムトラベル

---

先日

大学病院に行ってきました

日本橋から

神保町を抜け

水道橋といき

飯田橋まで

時間があったので

散歩がてら

歩いてみました

特に

神保町は

子供の頃

ミズノスポーツの

グローブ売り場で

グローブを触っているのが

好きな

変わった子でした

あの

革の匂いが

大好きで

買えもしない

高価なグローブをせめて

触って

嗅いで

満足していました

古本屋さんも

大好きで

あの独特の

紙の匂いが

好きでした

子供の頃から

四十年近く年月は

経ちましたが

あまり

変わっていないので

不思議な

タイムトラベルでした

水道橋は

野球を見に行き

飯田橋は

佳作座という

映画館で

一日中

何本も

映画を見て

楽しんでいましたが

その映画館は



なかったようでした

もう

レンタルの時代に

フィルムの匂いは

カビ臭いのかも

しれませんね

相手の立場に

---

学生の頃の

記憶が

よみがえり

フラッシュバックして

同級生に

ひどいことをしている自分が

突然浮かび上がり

自分の悪さに

頭が下がります

知らずに

人を傷つけていることを

忘れている

自分が傷つけられたことは

よく覚えているのに

だから

主は

愛せと言われている

愛されたから

愛するのではなく

喰らい

殺し

傷つけ

戦い

そして

きれいごとでは

生きられない

生命に

相手の気持ちに

容易に立てない

私たちに

愛しなさいと

言われているのかも

しれませんね

議論をして

言いたいことが

言えなかった時

言わない方が

よかったのかもしれないと

考える

また

言わない方が

よいと思われたことを

つい言ってしまい

後悔していると

後々

いい結果が

出る時もある

不思議だ

自分が

考えているよりも

物事が

いい方向へ向かう時

天上界の導きを

感じる

感謝は

いくらしても

足りないぐらい

愛されている気がいたします



お灸をすえたら

---

民主党不況は

沈没寸前の船のように

ゆっくりと

底へ向かっている

私たち中年は

軽い気持ちで

いつかよくなるだろうと

どっかで楽観的に

考えているが

子供達には

どう見えているのだろうか

就職ができなくて

大学院に残る子も



多いという

せっかくの学歴が

役に立たなくて

スネている子もいる

家に閉じこもっていたり

派遣で転々として

不安な日々を

過ごしている子もいる

そういえば

この前

不景気で店を閉める

という先輩に会いに行った時

先輩は

「チョット自民党に

お灸を据えるつもりで

民主党に入れたら

こんなになっちゃった」・・・・・・・・と

人を幸福にしないものなんて

---

金融政策の中心を

歩いていると

あんな大きな

要塞のような建物の中で

何をしているのか

と思う

人々を

少しも幸福にしない

政策をいくら

打ち出したとて

民の首を

しめているだけだ

お堀をはさんで

石垣の上で

渋谷栄一さんが

悲しい目で

その建物を

見つめている

日々を

---

世の中は

経済優先で

お金に換算出来る

ことが

すべてと

みんなが

勘違いしそうなぐらい

心が荒みそうだ

会社や

国家の負債は

論じるけれども

心の負債は

置き去りにされている

心が

借金まみれなら

この世に来た意味は

失われてしまう

毎日、毎日

心の借金を

重ねて暮らせば

何十年後かに

払い切れないほど

負債が

積み上がってしまう

日々を

清らかに

生きなければ

心は

汚れていくだけに

なってしまう

それは、信仰

---

教育の荒廃を

テレビで

特集していました

打つ手、打つ手が

後手、後手にまわり

とうとう

元に戻そうとなったり

先生も生徒も

まいているようすです

しかし

教育委員会も

文部科学省も

気がついていない

ひとつのことが



原因で

荒廃しているのだと

私は、思います

それは

信仰です

人間にとって

一番尊いものを

教育の現場から

排除してしまった

ゆえの

結果では

ないでしょうか

原因は

明らかです

志士たちは

---

大手町を

歩いていると

再開発の横に

重要文化財が

あったりする

一流企業がひしめく中

ふと

碑文があったりする

三菱ヶ原も

今やビル群

あの時

志士達は

何を

思ったか

今は

何を

夢見ているのか

占領

される

日本を

憂いて

どう

活躍していくのか

関の音が

聞こえた

気がしました

## 日本人の決断

---

歴史的建築物を

眺めていると

ヘーゲルの言葉を

思い出す

建築は

氷結した

音楽だ

耳を澄ませば

聞こえてくる

時代の

その時代の

呼吸の音が

香りが

志士たちは

また、

この地に

集って

大をなす

未来は

日本人の

決断に

かかっている

それを

選択できるかだ

幸福実現党こそ

望まれた

リーダー

なのだから



# 『ファイナルジャッジメント』の感動をさますために

---

映画『ファイナルジャッジメント』

の感動をさますために

気候も良いので

橋巡り

京橋から日本橋

江戸橋、今川橋、聖橋と

歩いてみれば

それぞれの形があり

個性がある

彼岸と此岸

こちらとあちら

憎しみと愛

ここと

向こう

現在と未来を

つないでいる

架け橋たち

なければ渡れない

迷妄から真理

# 靖国神社

---

靖国神社は

日本人の魂を鼓舞する

輝く菊の御紋は

威厳をはなっている

遊就館の寄せ書きに

涙ぐむ心は

無駄死にではない

若者たちの

おもいのたけを

刻印している

そして

日本の今と未来を

守り抜く気概を

誓わせてくれますね

日本占領が

近い今

目を覚ます時に

きていると

強く感じます

## 心の希望

---

貧しい国の

街の子供たち

食べるものも

寝るところもなく

明るく生きている

やせ細ったカラダで

精一杯生きている

たくましく

強く

決して

絶望しない

その目は

何を

見ているのだろうか

日本人が

忘れてしまった

心の希望を

食べ物に

かえて・・・

## 柔軟性

---

長い会議ほど

無駄なものはない

米軍にも

怒られていた

自衛隊

実戦がないと

どんなに優秀でも

固い体質に

柔軟性が

失われてしまう

即断即決

臨機応変

戦況は

常に

変化している

のだから



苦手

---

長い講習は

年のせいか

カラダが痛くなり

ヘトヘトになる

座学の6時間は

さすがに

こたえる

ただ

知らないことも

多くあり

勉強になった部分と

講師の方の

学派的な部分とは

分けて考えた方がいい

その系譜と経緯は

今後の理解に役立つ

知らない人と会話できるのも

ひとつの楽しみだ

普段、話さない人たちと

話すのは

いい刺激だ

しかし

私は

人が多いところは

どうも

苦手だ

# 解毒

---

突然の暑さは

頭をクラクラさせる

まだ

カラダは

慣れていないせいか

ビクビクしている

気候は

変動し

大気は不安定

今の

日本人の心を

映している

サヨク思想の根は深く

その毒は

日本中に

まわっているようだ

解毒

する

真実は

真理の

言葉なり

## 引き分け

---

光と闇

善と悪

が交差する

この世

何が正しくて

何が正しくないのか

選ぶのは

自分の中の心

多くの間違いの方向へ

向かわせる

欲望の見えない肯定は

自分を滅ぼしかねない

誘惑の罠

未生前の自分の意志が

どれだけのものか

肉体を持つものと

両刃は

この世での経験中の

最上の修行か

負けもし

勝ちもし

なるべくなら

引き分けに

もっていきたいです . . . .

## 傾聴

---

人と

話している

微笑む

それは

よくないと

怒られる

傾聴の講習で

相手に合わせて

笑ってはいけないと

教えられる

今まで

他人を

傷つけて

いたのだろうか

また

怒らせて

いたのだろうか

相手は

不快に

思っていたのだろうか

自分の中で

今、

迷いが生じている



## 修行として

---

さすがに

休み無しだと

体内時計が

狂ってくる

妙な緊張状態が

続いているようで

疲労を強く感じる

こうなってくると

食べ過ぎて

メタボまっしぐらに

走ってしまう

ストレスがたまり

自制心を失いそうになる

そういう時は

この世は

修行なのだから

自分を鍛えられることは

自分のためになっていると

強く思うことで

自分を

励ますしかない

とはいえ

早朝に

深夜に

休みなし

鍛えられています

## 中年のこころがけ

---

少し無理を

しても

すぐ

カラダに

あらわれる

この頃

大丈夫だろうと

その時は

頑張っても

後で

カラダに

かえってくる

疲労は

弱いところや

鍛えていない

ところを

狙って

襲ってくる

無理をしない

疲れたら

休む

中年の

心がけとして

若いつもりが

怪我のもと

ですよ

心をほぐしてくれるもの

---

日本橋から

浅草まで

歩いてみた

江戸橋通りを

スカイツリーに

向かって

歩いていると

迫力がある

古い街並みと

最新の技術は

妙に

マッチしているのが

何だか

おかしい

日本の不思議さが

疲れた

心を

ほぐしてくれる

# 信じられる政党

---

政界の闇が

払拭され

光がさしてくる

光が

舞い降りれば

闇は

消えるしかない

こんな者たち

支配されていた

なんて

私達は

錯覚していた



私達は

こんな者たち

踊らされていたなんて

もう

目覚めたのだから

だから

今

はっきりと

宗教政党

幸福実現党以外

信じられる

政党はないと

結果は

でたと

思われます

魂が強くなる

---

仕事が

忙しく

頭が

クリアに

ならない

打ち寄せる

悩みは

欲求と我欲が

突き刺さる痛みに

耐えかねている

弱音を

はこうという

弱い心は

真理を支えに

起き上がる

仮の宿りの

ひと時を

耐えてみせる

魂が

強くなるから

腹を括る

---

いろいろなことが

めまぐるしく

変化している

一つの悩みが

過ぎれば

次の悩みが

現れる

人間関係の

悩みは

尽きない

これは、

生命ある限り

続くと

思わなければ

ならない

ホッとしていると

次なる問題が現れ

打ちのめされるから

やはり

一人では

生きていけないのが

人間だから

悩みは

尽きない

人間である以上

仕方の無いこと

と

腹を括る



## 映像化

---

このまえ

「愛を読む人」

という映画を見ましたが

原作を

超えることは

なかったように

思われる

やはり

映像にすると

生々しい部分と

自分の中の

想像が

優っている部分が



気になってしまう

本を

映像化するのは

難しい

ですね

# 梅雨

---

梅雨らしい

梅雨のように

雨が降り続く

雨の音が

車の通る音と

ぶつかり合い

しぶきが飛んでいる

水の音が

ワイワイしてる

植物たちは

夏の繁栄の前の

蓄えをたっぷりおこない

強烈な日差しにも

負けなように

根を張る

雨の音は

深夜の静寂を

一瞬たりとも

広げることが

ないくらい

降り続けている

# 太陽の国

---

太陽は

姿を

隠したかに

見えている

日本は

太陽の国なのに

信仰心が

溢れている国

だったのに

風が

吹き荒れ

日の沈む頃

自分たちが

犯した

過ちに

気づいたものは

悔い改めて

心に

太陽を

取り戻せばいい

日が差さなければ

枯れてしまうからね

# 光の真実

---

深い闇が

徐々に

我々を

取り囲み

飲み込もうと

しているが

そこに

天から

一条の光りが差し

闇を

打ち砕いた

救いのない

暗闇よ

このまま

すべてを

塗り潰すのかに

みえたが

光りが差した途端

闇は

消えてなくなって

しまった

光りに

勝てない

闇は

知っている

光に

抗えない

ことを





更なる混乱を避けるために

---

幸福実現党が

生まれて

三年

いま

色々なことが

明らかと

なっている

みんなが

相手にしなかった話が

現実となり

無視できなくなっている

政治屋たちの

茶番は

もう飽きた

本物が

現れた今は

静かに

その場所を

空けるべきです

更なる

混乱を

避けるために

壮絶

---

生きることは

きれいごとでは

済まされない

空気を汚し

植物を

殺し

動物や魚を食べ

木を切り倒し

互いを

ルールに押し込める

それなしでは

生きられない

人間ならば

せめて

供養と感謝で

弔わなければ

愛を

語る資格が

ないのかもしれない

生きるということは

壮絶な

ことなのかも

しれませんね

掌で踊っている

---

人間の

カラダは

不思議だ

怪我をすれば

治ろうとするし

疲れたら

休めば

元通りになる

欲求は

肉体を

また、種族の保存を

内包して

肉親や家族の愛を

強めようと

カモフラージュされる

その巧妙な

神仕組みの前に

翻弄される自分は

掌で

踊っている

だけなのかな・・・・

## 心の悩み

---

同じ職場でも

うつ病の人が

何人かいる

仕事の悩みや

重圧で

心が病んでしまった

みんな

芸術家のように

繊細だ

でも

二つの

簡単なことで

乗り切れるかもしれない

ヒントがあるとすれば

正しい信仰を

もつことと

結婚すること

(同棲はダメです)

祈りと

ぬくもりは

心を

癒すと

思われます

私は

それを

実感しております





## 組織

---

問題が起こり

解決する

その為に結束し

チームワークを

育てる

この繰り返しで

組織は強くなる

人による問題

資機材

管理と運営

色々な局面で発生し

複合的な

糸の絡まりは

解けないように

見えることもある

その時は

誠実に

忍耐強く

時が立つのを

耐えていると

道が開けてくるのが

何度もあった

最後は

祈って

信じて

そして

好転して行く

ことを

イメージングして



## 膝を折って

---

正しい方向へ

人間は向うべきなのに

その方向が

わからないなんて

待っているだけでは

その情報は

伝わらない

その差が

理解の差に

つながっているようだ

ゆっくり

浸透するのを待つか

いや

そんな時間がない中で

ひとり一人

自分のできることをする

その力が

ある時

動かないものを

動かす力となり

天地をゆるがす

最後は

信仰の力を信じて

膝を折って

祈る願いが

届きますように



## 分岐点

---

正義は

選択されず

国民は

不幸を選んだ

結果

大震災と大増税

領土は

他国に

侵略され

ミサイルで

脅かされる日本

貧乏神と疫病神とを

選択した



分岐点は

この前の

選挙だったとは

言論封鎖が

あるなんて

増税反対のデモや

大川隆法総裁先生の

アフリカ御巡錫、

幸福実現党のことを

報道しない

日本のマスコミは

偏向し過ぎている

私たちは

本当に真実を

知っているのだろうか

アンフェアな情報を流されて

偏った思考に

誘導されている

私は

この国のマスコミは

恐ろしいと思う

間違いなく

第一権力にあると

感ずる

消費税を

上げなければ

社会保障はできない

という論法を

ギリシャのように

デフォルトの危機

を煽られ

刷り込まれた

国民は

ある強者に

統制され行く

運命なのか

意図を持った報道と

その背景にある

覇権国家に

占領される

運命なのか



## 心の問題

---

心の問題を

抱えた人が

周りに多くいる

自分では

実感していないような

素振りではあるが

医者からは

うつ病と診断された人もいる

不思議だが

話を聞いていると

普通なのだが

ネガティブになると

とことんいってしまうようだ

雨が降り続くと

もう、止まないのではと

真剣に思い込んでしまうようだ

その人たちと会って

話していると

思うことがある

それは、

皆、共感してもらいたい

願望を強く

持っているということ

孤独を抱えきれないでいる

誰かに愛されたくて

愛されない

その欲求不満な心が

爆発寸前のところに

きている

いつ

爆発するのだろうか・・・



## 甘いトラップ

---

親子や夫婦とは

憎しみ合うものなのか

それとも

愛し合うものなのか

自然に

愛し合うのは

愛というよりも

本能領域での

種の保存を

目的とした行動に

惹かれあつての

結びつきから

男は妄想を抱く

男は

女性を意のままにできる

願望に取り憑かれ

女性は家族という

暖かく安らぎに満ちた

巣作りを

イメージするが

現実は両方を

確実に

打ち砕く

愛に

カモフラージュされた

人生修行の場に

引き寄せられた

甘いトラップに

深い意図を

感じます



すべての国民に

---

主の光りが

直接

国民に

届こうとしている

今まで

宗教的なものだけが

微かに

感じ取っていたものが

多くの人々の心に

その御光りが射し込んで

きている

私は、祈ります

主の御光りが

人々の心の

光りとなります様に

人々が

その御光りに

気がつきます様に

人々が

その御光りを

受け入れます様に

どうか

すべての国民に

主の御光りが

届きます様に

スッキリしない

天気が

続く中

大增税が

決まろうとしている

街に失業者が

あふれないことを

自ら生命を絶つ者が

出てこないことを

祈るしかありません

生命をかけて

増税する

国民に

負担を強いる

政治家が

いるなんて

天下の極悪人でしかない

こんな歴史に残る悪政を

選んだ

国民を

2009年夏に

戻して

あげたい

それが

叶わぬのなら

最後のチャンスに

かけよう

幸福実現党が

立党した理由が

今

明らかに

なる



天意は明らか

---

記録的な

強雨が

街を襲う

政治の混迷も

そうだが

観測史上初の

出来事が

多い

天意は

明らかはずなのに

まだ、

気がつかない

政治家達は

国民を

不幸のどん底に

落とすつもりなのか

民主党は

厄病神だと

自覚して

退陣して下さい

さらに

大きな災いが来る前に

## 一点の曇りもない真理

---

主の不惜身命は

エネルギーにあふれ

誠実に

語られた真理は

一点の曇りもない

日本から世界へ

光りを伝える

御姿は

後世の鏡となる

この時代に

降りられ

使命を

全うされる

御姿を

拝見できる幸運は

何億年の宝となる

肉眼で

同時期に

拝見でき

かつ

存在が

許された幸福を

今

噛みしめる

本当に

最近は

疲れやすい

やりたいことは

たくさんあるのに

一部しか

できないでいる

世の中の不景気も

手伝って

人件費は

コスト削減の

理由となり

人が

どんどんやめていく

踏ん張りどころではあるが

安全は

犠牲になり

事故は多発する

いつまで続くのだろうか

民主党不況は . . . .

胸一杯

---

疲労が

沢山

たまった時は

せめて

胸一杯

空気を

吸おう

この世に

馴染めず

疲れている

異邦人のように

常に

違和感を感じるのなら

自分は

宇宙人かもしれないと

考えたなら

少し

笑えるね・・・

ふと

涙がこぼれ落ちそうな時

心は

むき出しの状態

皮膚のない

神経のように

痛みは

激痛に



かわるのなら

芸術は

優しく包んでくれる

衣服と

なるよ

## 詩を奏でるもの

---

詩人として

生きているのに

限界を

感じる時が

しばしばある

この世に

魂が馴染まず

苦しい

この違和感が

更に

孤独に

追い込んでいく

心の痛みは

虚無へと向かい

胸の痛みは

ため息と

苦しみを

挟み込む

このきしみ

この音が

詩を

奏でるのか

## 私の愛

---

愛は

自分に何をしてくれたか

ではなく

自分が何をしたかで

決まる

私の愛は

詩を書き

発表すること

ゆえに

それ以外は

くだらない人間でも

弱く

いつも負けそうになっている

けれども

詩を書き

発表することで

愛とする

## この世の仕組み

---

社会に出る

準備もままならない

うちに

働き始め

働いている

うちに

社会の仕組みが

分かり始めた

お金の流れと

立法

行政

各メーカー

下請け

孫請け

ひ孫受け

更に

下まで

あるとは

気づきもしなかった

一流会社の

役員室は

王宮の様に

フカフカの絨毯に

美しい秘書

ハイヤーにて

送り迎え

はたまた

倉庫の隅で

ゴミと一緒に着替え

休み

体の痛みに

耐えている人もいる

どこで

道が別れたのだろう

何が

違ったのだろう

もう少し

見ていたい

この世の

仕組みを



仕事の計画は

今期はびっしり

けれども

不景気の話し

ばかりが

周りに吹いている

この不景気は

呪いのように

ただならぬ様相を

呈している

日本が

壊れそうな

衝撃をも

有しているようだ

こんな時こそ

誠実に

仕事をしていこう

一日一生

一日の苦勞は

一日で足れり

ですよ

## 割り切れない感情

---

最近疲れやすいが

このところ

少しエネルギーが

たまってきた気がする

何となく

力が湧いてくるような

そんな感じが

身体を前向きに

してくれる

今

振り返れば

あれは何だったのかと

思う時がある

この世は

ある種の感情で

動いていることと

論理的な部分が

交差していて

それを

体感できることは

大きな学びだし

この世に生まれてきた

ダイナミズムだ

こうなれば

こうなると

時として

感情は

そうは

いかない不思議な

経路を

たどろうとする

割り切れない

感情は

論理を超えて

自分を動かし

自分を

悩ませている

修行が

足りないなあ

## 今に感謝

---

詩を書くことと

真理を学ぶことは

自分の根本であり

また、人生でも

比較的

応援されている様な

気がします

少し横道に

逸れようとする

その部分に関しては

うまくいかない壁が

立ちただかります

考えてみると

自分の人生の中で

詩を書くことと以外は

自由を

許されていないような

強い流れを感じます

もう

五十年

過ぎました

詩を書いてたら

あっという間

でした

何不自由なく

詩を書ける今を

主に感謝致します

限界

---

休みが

取れないと

今日が

何日か

わからなくなる

長い時差ぼけのような

血液の循環が

悪い感じがする

皆、

低予算で

無限とも思える

仕事を抱えている



限界は

いつきても

おかしくはない

民主党不況は

いつまで続くのだろうか

実感

---

久しぶりに

若い者に

混ざって作業

やはり

身体動かすのは

気持ちが

いい

少し

気持ちがハイになる

そう言えば

ゲーテも言っていた

「運動すると、ふさぎ虫が消える」と

身体が

心に少なからず

影響を与えているのを

この歳になって

実感するとは・・・

## 贅沢な時間

---

休みの日に

朝から

ゆっくり

読書できる日は

本当に

贅沢だ

時間を

気にせずに

ゆったり時が

流れていく

特に、

トスカニーニの音楽は

絶望的な、原曲を

イタリア的な

解釈に仕上げてくれる

それにつられて

自分の心も

悲観的なものから

脱却させてくれるのを

助けてくれる

芸術は

きっと

混沌や

混乱を

調和へ

導き

人の心の

カサカサに

潤いを与える

美容液のような

クリームのように

その人の

本来ある力を

呼び覚ましてくれる

手助けをしてくれる

のではないかと思います

御もてなし

---

高いお金を出して

得られるはずのサービスが

得られない場合

顧客は、無言で

離れていく

もう、二度とは

そこへは行かないと

心に決めて

本当に、

一期一会を感じた

一日でした

日々

真剣勝負ですね





数字は、おそろしく現実だ

---

採算や損益は

実際に運営して

痛い目にあい

身体にしみると

本当に

理解出来るものだと

最近、つくづく感じる

数字は

おそろしく

現実だ

## 地味な努力を

---

時々

どうでもいいことが

気になりすぎて

道をそれてしまう

基本に立ち返って

自分の芸術に

打ち込んでゆく

詩を書くこと

詩を朗読すること

詩を清書すること

そして

本をよく読み

字の練習をして

コツコツと

積み上げていくこと

を

地味に

やっていきたいと思います

燻し銀のように

---

悩みや

問題は

日々

起きてくるが

不思議と

誰かに

解決されたように

クリア

される感じがする

また

自分を振り返って

自分が

進歩しているかと

思い巡らして

みると

正直

作品の数は増えたが

心境が

高まったとは

言い難い

若い頃の方が

清らかだったような

気がするし

歳と共に

妥協してきた点は

否めない

自分の希望としては

燻し銀のように

渋くなりたいです

ミスは

誰にでもあるが

ダメージが

大きいものもある

会社の信頼を

失墜させるほどの

ミスを

アルバイトの子に

させた罪は大きい

過去の大きな事故も

信頼していた子に

任せすぎた要因は

否認ない

コストと

信頼性は

大きな

矛盾を

はらんで

いるようだ

まだ

判断が十分に

できない子に

どんどん

危険なことを

させている



薄氷の上を

歩いている

ような

運営に

心は

磨り減るばかりだ

会社の信頼を

大きく損ねた

ミスをした

アルバイトの子達は

何年かすれば

辞めてしまうし

そのミスの

事実だけが残る

本人たちも

そんなに大きく

考えてはいないだろうし

すぐ忘れてしまうようだ

後に残って

責任を取らされた

者たちは

少し気の毒な気がする

意識の差が

責任の差になり

事故を

生んでいるようだ

生存している

社会においても

意識の差は

歴然として

存在している

本当に

日本を憂いているのは

幸福実現党

以外には

ない

## 無為の心

---

自分の

なさざることへの

悩みは尽きない

自分の出来ることを

すればいいと

言い聞かせても

自分の範囲を

超えてしまう

ものへも

目が向いてしまう

空回りする

心に

いつも

振り回されて

しまう

無為の心を

取り戻せ

充電完了

---

御生誕祭の後

たまアリから

そのまま

深夜の作業へ

年のせいか

身体は

悲鳴を上げるが

心は

晴れやかです

主の御光と

言霊を

全身に浴び

充電完了と

あいなりました





## 責任の所在

---

事故の責任は

組織的に

責任を

取ろうとすると

無責任に

なってしまうようだ

やはり

事故責任は

明確にしていくことで

本当の解決に

近づくのではと

考えます

たとえ

複合的要素が

あったとしても

責任の所在は明らかに

しなければ

ならないと思います

ある特定の人に

会うと

一日中

マイナスの思いが

取り憑いてくる

また、

今日は

悩みが多いなど

思う日は

ある特定の人と

会った後だと

思う時がある

ブラックホールの

ような人が

何人かいるようです

気を抜くと

うっかり

やられてしまうことも

しばしばです

日々

気をつけたい

ものですね



## 必勝の人材

---

会社のメンバーを

みると

会社の力量が

わかる

とすると

幸福の科学の配置は

必勝の人材

危機でもあり

チャンスでもあり

チャレンジでもある

歴史の転換期

ダイナミックな

激動を

時代の精神の

躍動が

肌で感じる

この日本

もう

舞台は

始まっている

夏の暑さも

マックスになって

クラクラする日差しに

体力も

消耗しがちです

何かと

捗らない

今日この頃ですが

習慣の力で

何とか



推進しているようです

クーラーがなかったら

大変な事態に

なると思われませんが

原発をフル稼働して

ガンガン

部屋を

冷やしましょう

それが

最大の

熱中症対策ですよ

静かな朝に

---

静かな朝を迎え

テレビは

オリンピックで賑わっている

選手達も

日ごろの練習の成果と

女神の微笑みと

イタズラに

一喜一憂している

不思議だ

普段通り戦えば

必ず勝てるはずなのに

思いもしなかった人が

勝ったり

必ず勝てると言っていた

選手が

負けたり

目に見えない力も

働いているようだ

また、

あるところでは

奇跡も起きて

まるで

女神が

手伝って

選手と共に

戦っているように

感ずる時もある

限界を突破するパワーは

目に見えない

何かを

感じますね

相違

---

どうしても

壁を

感じたり

言葉？

言語が違おうと

感じたり

二の腕のところに

違和感を感じたり

自分の裁く心の現れか？

それとも

マイナスの

エネルギーの作用か？

そんな時

とても

孤独を感じる

切り離された

世界のなか

その孤独に

この孤独に

どこまで

耐えられるだろうか

## 疾の昔

---

いろいろな

波動が入り乱れている

この三次元

主が

生まれていなかったら

どうなっていたらだろうか

おそらく

疾の昔に

滅びていた

かもしれない

この地上に

いながらの

霊知識ほど

整理し難い

ものはない

それなりの理論と

正義感が

カモフラージュして

こちらの智慧が

足らなければ

すぐやられてしまう

やはり

主の教えに従って

いちばん安全で

間違いのない

学びの方法で

基礎を

固めなければ

とても



かなわない

主の教え通り

人を

跪かせるのではなく

あなたが

人の為に、跪いて

まず、祈れ

と

教えて戴いたように

いつも

光りの側に

いることを

確認しなければ

何時の間にか

すり替わってしまう

これは

かなり巧妙な

手口であると

私は

考えます

## 韓流について

---

今更ですが

なぜ

韓流なのだろうか

と

考えていると

幾つかの

思い当たる節が・・・

日本人がなくしたものを

ドラマや

歌などで

表現しているから

礼儀正しさ

敬語を含む言葉遣い

笑顔、誠実さ、身綺麗

きたくない

等でしょうか

懐かしさは

過去の秩序観の

現れでしょうか

中年以降壮年層の女性を

虜にする

ある種の安心感が

あるのかも

しれません

日本の芸能界に

大人の女性が楽しめる

何かが欠けているのは

ジャニーズ帝国と

S学会のタレントに

飽きがきているのかも

しれませんね . . . .

## 最近の日本のドラマが面白くないと思われる理由

---

脇役が甘い

ストーリーが面白くない

世相が反映され過ぎて気が滅入る

役者に魅力がない

理屈ではない部分も多いでしょうが

女性特有の感は

見過ごせないですね

## おそろしい現実

---

不況も

ここまできると

本当に大変だ

ジワジワと

客足が遠退き

シャッターが

閉まっているようだ

この前まで

開いていた店が

今日は

しまっている

政治の混迷が招いた

不幸は

おそろしい現実だ





## 軌跡こそ奇跡

---

時代が

光を失い

さらに

闇へと進む

行進を

止める手だては

主の言葉

その言葉だけが

闇を

止め

光りが

道を照らす

目に見えぬものを

本気で

伝える

その軌跡こそ

奇跡だと

知ることに

なるだろう

## 時代の意味

---

主の存在に

気づかず

過ごしている人

本屋に

いっても

その光に

気づかずに

通り過ぎていく

魂たち

法縁が

ないはずはあるまい

寄る辺に散る

魂たちよ

共業を

共にするのが

定めならば

甘んじて

受けよう

主の光りを

伝えられずにいた

罪を

せめて

背負おう

この時代に

生まれたのだから

## 「読書の技法」について

---

「読書の技法」

佐藤優著について

思ったところを

述べたいと思います

蔵書は4万冊、月平均300冊以上を

読破する、読書の達人の書かれた本です

簡単に要約すれば

多読と精読の仕方と捉えれば

分かりやすいかもしれません

さすが、元外務省の分析官

知の巨人といっても

言いすぎではない知識量です

あきらかに

プロの中のプロの領域に入っている方に

素人が感想を述べるのは

分が過ぎているように思いますが

何点か指摘して

読書人の袋小路に

迷い込む後人を少なくする

といった意味合いを含めて

考えていきたいと思います

まず、

「知識を着実に身につけ、人生を豊かにするためには

正しい道に沿って読書をするのが重要だ」

といいながら

「教科書と学習参考書で基礎知識をつける」と

後の章で記述している

教科書が正しくないことぐらい

今は、周知の事実なのに・・・

意図的に、刷り込もうとしているのは

日教組か反日工作員と思われる

また、歴史小説で歴史を勉強してはいけないと

司馬遼太郎さんを批判している

（「司馬遼太郎なら、この国の未来をどう見るか」

著者大川隆法総裁先生を読んで戴きたい)

田母神さんや一色さんをクーデターを

起こした犯人のように記述している

経済においても

再評価されるマルクスと社会主義を検証する箇所

亡霊を復活させようとしている

以上の記述から

とても残念な方だと

言わざるをえない・・・

最初に著者自身が

正しい道に沿って・・・と

言われていたが

その正しさが

真逆のような感じがする

どんなに沢山の本を読もうとも

どんなに沢山の知識を集めようとも

真理、信仰にたどり着く道で

なければ、正しいとは言わないのでは・・・

と私は考えます

長くなりましたが

最後に、主の御言葉で

おわりたいと思います

「たとえ、何万巻の書物を読むとも

たとえ、全世界を旅行してまわるとも

己自身を見極めることができなければ

その人は智者とは言わないのである」

仏陀再誕

「己自身を知れ」より

大川隆法総裁先生著



偶然

---

偶然

街で出会った

その時でさえ

時を超え

時間を

さかのぼった

けれども

その

時間を

巻き戻せずに

気まずい空気が

流れていく

それぐらい

時は

流れていたのだ

もう二度と

会うことは

ないけれど

忘れ去っていることも

思い出すこともない

鍵をかけて

そっとしまって

おくのなら

それほど

互いが

変わってしまったから . . . .

せわせわ

---

体調が悪い時は

やりたいことは

おいておいて

静かに

休みましょう

気力が出てこなければ

出てくるまで

休みましょう

心が

せわせわしても

なだめて

空の雲が

ゆっくりしているように

自分の心の速度を

落としましょう

### 第三の道

---

後世の詩人の方々へ

残せるものは

なにか

残していきたいと

常々考えていますが

詩で

生活できず

早死してしまうか

詩作をあきらめて

しまうか

二者択一に

ならないように

第三の道を

提示できればと

考えています

どんな職業がよいかは

人それぞれでしょうが

あまり

頭を使わず

ストレスがかからない

仕事がよいと

思われます

私の場合は

肉体労働を

27歳から

続けておりますが

早朝の作業

夜中の作業

昼間の作業と

不規則な毎日

身体が資本なら

健康は財産と

肝に銘じ

- ・ 健康・・・日々利子を生む
- ・ 真理知識・・・天に富を積む
- ・ 作品のストック・・・心の糧と愛の実践

これらを

ダムのように貯めて

最後の最後まで

詩を書き続けていこうと

強く念じています

生活費を稼ぐことは

恥ずかしいことではなく

税金を払うことで

国の役に立っていると捉えて

芸術家に

ありがちな

選民意識を強く持たずに

普通に、働いている人たちの

心の糧を

与えられるように

努力すべきと

私は、考えます



見果てぬ夢

---

帝国劇場へ

昨日、行ってきました

「ラマンチャの男」

そうです

セルバンテスのドンキホーテです

松本幸四郎さんのミュージカルですが

私が

はじめて観た

思い出のミュージカルでも

ありました

おもえば

30年ほど前

ある演出家の先生のすすめで

一度は、観た方がいいよ

勉強になるよ

といわれて

しぶしぶ観に行ったのを

記憶しております

日本人にとって

ミュージカルなんて

まだ、そのころも

馴染みの深いものでは

なかったように思います

タモリが

番組で

ゴルフとミュージカルの

悪口を言っていたのが

頭に残っています

突然歌いだすなんて

みたいなことを

批判していたと記憶しています

私も

そんな気持ちで

座席に座りました

ところが

最初の序曲で

鳥肌が立ち

見果てぬ夢のころには

ナイアガラ状態となり

エンディングでは

完全に打ちのめされました

まさく

芸術を観たのでした

この目で

精神が創りだし

精神が受け取る

この人が創りしき

高貴なる物語は

高貴なる精神そのものでありました

魂が

驚掴みにされ

魂が

揺さぶられ

震えたので

ありました

それは

私の人生さえも

変えました

芸術の世界に

足を踏み入れた

瞬間でもありました

そんな

記念の作品を

二十年ぶりぐらい

三回目か四回目の観劇ですが

S席のA列センター上手よりという

最高の場所で

見果てぬ夢を

息がかかりそうなところで

聞きました

なんという

軽味と凄味の

深みは

70歳にもうすぐなられる

松本幸四郎さんの

芸術の集大成を

間近で観じ

その呼吸や間、ブレスまでも

感じ取れるほどの

そばで

ありながら

ラマンチャの男という

夢を

見させて戴きました

この

見果てぬ夢は

歌詞の通り

あるべき姿を

追い求める

理想を

追い求める

生き方を

歌ったものでも

ありますが

ふと

2009年夏

幸福実現党が立党し

立候補し惨敗したのが

思い浮かびました

国防問題を懸命に訴え

声を枯らししてもなお

魂を削り

宗教がなんで政治にと

批判を受け

中傷され

笑われた

けれども

3年後

国防問題で揺れている

日本を憂いている

志士たちに

騎士をダブらせてしまいました

幸福実現党の方々は

見果てぬ夢を

可能にする

現代のドンキホーテ

ラマンチャの男たちです

彼らの辻立ちの姿は

遍歴の騎士そのものです

最後に

見果てぬ夢の歌詞を

記したいと思います

8月25日まで上演していますので

どうぞいらして下さいね

一生に一度は観る価値ありの

作品です

見果てぬ夢（騎士遍歴の唄）

夢は稔り難く

敵は数多なりとも

胸に悲しみを秘めて

我は勇み行かん

道は究め難く

腕は疲れ果つとも

遠き星をめざして



我は歩み続けん

これこそ我が宿命

汚れ果てし この世から

正しきを救うために

如何に望み薄く 遥かなりとも

やがて いつの日か光満ちて

永遠の眠りに就くその時まで

たとえ傷つくとも

力ふり絞りて

我は歩み続けん

あの星の許へ

## 黄昏時に

---

最近の天候の不順に

日本神道系の神々の

怒りを感じる

現政権への不満を

顕にしている

本来なら

政権のトップが

禊払いをするのが

当たり前ではあるが

罰当たり政権に

そんな甲斐性は

なさそうだ

一体

いつまで続くのだろうか

この日本を

沈没させようと

国民をどん底に

落とそうという

意図を持つ人たちに

振り回されるのは

幸福実現党の

政策が

やけに眩しいのは

黄昏時が近いからか

## タイムライン

---

ツイッターや

フェイスブックの

タイムラインの

発想は

極めて

面白い

リアルタイムの情報は

刺激的だ

そして

あらゆる角度の情報が

得られるので

一面理解だった

テレビや雑誌、新聞を

速報性と多面性で

凌駕するのも

時間の問題か

自分なりのメディアを

作れるのは

面白い

昔は

手紙

今は

メール

日記は、

ブログ

吉田兼好が

みたら

どう思うのだろうか？

いま

徒然草を

写文して

下手な字を

なんとかするために

練習しています . . . .

字を書くと

心が静まるのは

なぜで

しょうか

不思議と

心が落ち着いてきます

日本は、世界のリーダーになる

---

ようやく

日本が

目覚めようと

している

長い眠りであったが

深く傷を負ったのち

引きこもって

自立するのを

恐れていたが

横っ面を

叩かれて

本来の自分を

取り戻そうと

している

日本は

これから

更によくなる

陸海空軍を持ち

核武装し

正しいことを

正しいといい

間違った

事は

見て見ぬ振りには

しない

悪は

善が

何もしない時に

はびこる

善が善を行えば



消えてしまうもの

正しい強さを

背景に

日本は

世界のリーダーになる

その御名は

---

汚れてしまった心

こんな心で

詩を書くことが

できるのだろうか

弱い自分に涙が出る

色々なものに

振り回されて

翻弄されて

自分を失い

心は

汚れる

しかし

最後の

綱は

信仰の

ロープ

人は

主さえ

間違わなければ

何とかなる

主とは

その御名は

エル・カンターレである

# 人生を愛そう

---

人生を

愛そう

芸術を

愛するように

美しいものは

敵も味方も

忘れさせる

ひと時の

慰め

芸術は

心の慰め

人生の

うるおい

善悪を超えた

魂のきらめき

自分を責めても

他人を責めても

結局は同じ

美を

心に従えば

目に見えぬものを

感じ取ることが

できる

美しいものは

目に見えず

耳に聞こえない

というから

## 希望を信仰に託して

---

心は汚れ

ドブのなか

哀しみは

その汚れを

拭いきれない

絶望感

老いは

純粹を

不純に

心を変容させ

あるべき姿ではなく

現実と折り合いをつけて

何も感じない

自分 . . . .

この心から

見る景色は

なんと

濁ったものか

白濁とした

にごりの

救いは

信仰のみの

許しか